

現第一地区地区幹事？兼ブロック長である極楽寺氏（教育部幹部）が、最近（←この報告書を書き始めた当時）になって男子部の活動に対し不当な干渉及びデマを流すなどの妨害を続けており、地区・支部をまきこもうとする態度が見受けられます。

ここでは、過去からの同氏の、組織を潰し続けてきた異常な行動について報告させていただきます。順番が入れ違いになりますが、副本部長時代、副部長時代、部長時代の順で説明させていただきます。

それから、極楽寺氏のやり口はいつも、学会の組織を巻き込みながら周囲の人間を煽動し、手の込んだ事をして来ました。この説明の為、どうしても当時の組織で何が起こったのか、極楽寺氏のまわりの人間がどういう行動を起こしたのか、どうしても説明しなければなりません。しかし、もとより組織の批判など本意ではありません。極楽寺氏の人間性を説明するのに必要な文面として組織のいろいろな部分も書きますが、まわりを巻き込んでとんでもない行動に走らせたその中心者は、間違いなく極楽寺氏であり、~~他の人たちのやってきた事をいまさら云々するつもりは毛頭有りませんので、ここにお断わりしておきます。~~←どうしても、周囲の方々への反省も促さなければならないのではないかと最近感じています。

内容（すみません正確な目次では無いですが目安にして下さい。順番が違っていたり色々です）

最初に（私の考察）

副本部長時代

小林達哉さん折伏潰し（不法侵入、捏造ネタばらまき）

N 町担当時、活動停止

あいさつなしに帰宅

副部長時代

就任時

長島重雄副部長（当時）を誹謗中傷

青年創価合唱団を中傷、私に対する捏造ネタの垂れ流し

小柴男子部班長を退転状態へ

周囲の方の、私に対する態度の急変

部長時代

少年少女合唱団団長を辞めさせる為、私に対する捏造ネタの垂れ流し（「新世紀と人間展」での報告捏造、男子部班長と部員に対する嫌がらせ→退転状態へ、事実無根の報告書提出）

家庭訪問中の、私に対する暴力

私の自宅への不法侵入と、地区リーダーたちのふざけた態度（今回阿修羅掲示板への掲載の為

追記した)

地区リーダーと部員に対する誹謗・中傷

諸天が守った

参議院選挙での報告捏造と最終3週間の姑息な手段

座談会会場での暴力行為

極楽寺氏自身が部の活動者会に参加しなくなっていった

地区大会の報告捏造、私に対する執拗な嫌がらせ、第二地区と第四地区の地区部長の対応
多喜支部長を洗脳

北条宗雄地区リーダー（当時）に対する中傷誹謗を始める

東京都議選の件（極楽寺氏自身が支援活動をしないう上、北条君・大島君に責任転化した上で嫌がらせを行なう）

創価班大学の件（私が育てた人材を、説明しないで入校させ、退転状態へ追い込む）

石井龍馬君の件（同居している彼女に対する誹謗・中傷）

創価班任務に遅刻の上、チノパン、グレーのとっくりセーターで着任

本部へ少年少女合唱団アルバムを届ける時（私を参加させない為の嫌がらせ）

ゾーン結成記念日の件（計画的に問題をでっち上げた上で、捏造ネタを幹部に吹き込み人事を動かす）←まだ編集中です

少年部員会の日程を勝手に捏造←まだ編集中です

達哉さん部活参加希望時の件（駐車場案内を妨害）←まだ編集中です

止めてはいけない駐車場へ、わざと毎回、必ず止め続ける（北条宅、やしのみ宅使用の件）

私の家への、留守中の不法侵入

私の、車のブレーキの操作方法やジーパン着用等、些細な事に対する執拗な言い掛かり←まだ編集中です

部長最後の年の、男子部名簿作成時の嫌がらせ（年末、年始）。赤字だらけでしかも第四地区のみ作成しない。←まだ編集中です

*部の御書学放棄と嫌がらせ

創価班の担当態度について

*私が帯状疱疹を患った時に、病名を捏造し組織へ流布する

極楽寺氏の、創価班卒業間際の出来事（着任中の、私に対する嫌がらせ）

最初に

なぜ彼が組織破壊の行動を繰り返してきたのか、私の考察を書きます。

彼が一番恐れている事：自分の過去がばれる事。自分の本性が見抜かれること。組織に自分の悪事がばれてしまう事。

いじめに対して極楽寺氏が「金八先生や不良少女と呼ばれて、といった番組が悪いんだ」などと組織で言うて回るのは、自分の本当の姿を隠したい一心でとっている行動である。自分の本

性が見抜かれたくないばかりに、「自分はいじめに対し、真剣に向き合っている」といったポーズを、必死にとるのである。

自分の素性を言い当てた人間、又は本性がばれてしまった人間に対し、徹底的に付きまとい、うその噂を流し続け、その相手の信用を徹底して落とす。その上で、指導と称し、しつこくいじめに通い、しかも組織のまわりの人間までもいじめに加担させ、組織をまきこむ。

自分より上の立場の人間には、決して自分の本性を見せない。逆に、さまざまなものに対する批判を通じて（学会組織内の矛盾点、世間での事件、自分がいじめている相手に対するデマ）あたかも自分が悪に対して戦っている人間である、私は悪を許せない、と常に周りにアピールし続けているのである。（特に、上の立場の人間に対し）

それは、あくまでも自分の中の暴力性を誤魔化するための隠れ蓑であるにすぎない。周りの人間が、実際に起こってしまった事実をきちんと認識した上で、極楽寺氏に対して指導・激励を重ね、更正させていくのが、周りの学会員のすべき事である。

繰り返すが、決して、周りの学会員が、極楽寺氏のデマに振り回され、獅子身中の虫の所業に加担してはならない。組織破壊の、極悪の行動に、何があっても決して同調してはならない。

副本部長時代

小林達哉さん折伏の件（達哉さんは私の折伏先であり、極楽寺氏の兄とも友人である。極楽寺氏とも知り合い。）

極楽寺氏が副本部長になりN町の担当になってしばらくしたころ、私が以前から下種していた会友の小林達哉さんが、水曜日毎に私の自宅で唱題をする事を決意してくれた。

ちょうど小林達哉さんが仕事の件で悩みをもっていたころであり、ここまでするのに私と北条部長（当時）、大島広地区リーダー（当時）、それから加藤本部長（当時）と一緒に通い詰め、激励を重ね、一度は「もう来ないでくれ」とまで言われながら、ここまで折伏を進めることができた。当時の北条部長も、新任の部長という事で、成果に執念をもち、何度も通い詰めてくれた。

この事を、創価班の任務の後、岩志水総括（当時）に話をした。そこに極楽寺氏も居て、すぐとなりで話を聞いていた。

①次の日の、極楽寺氏の嫌がらせ

極楽寺氏が、突然、小林達哉さん宅にあがりこんでどなりちらす、といった事が起きた。しかも話の内容が、とても尋常とは思えない、わけのわからない、端から見たらやたら幼稚で滑稽な内容を大声でわめき続けたらしい。

いきなり玄関先で、「ラジカセをすぐに貸せ！お前のところはたくさんあるだろう！運動会は来月だが、どうせ買い過ぎてたくさん持っているんだから、すぐに出せるだろう！？今日貸せ！」などと騒ぎ、止めるのも聞かず無理やり勝手に家へ上がりこんだらしい。そして部屋に入ると

「ああ！？なんでお前のところは、こんなにたくさんラジカセばかりあるんだ！？なんでこんなに要りもしないものを買うんだ？」などと、でかい声でわめき散らしたらしい。

部が一丸となって成果に執念をもち、悩んでいる友人のもとへ誠実の対話を繰り返してようやく唱題を始める決意をした友人のところへ、なぜこのようなくだらない、いやがらせの妨害が平気で出来るのか、理解できない。多少たりとも御書を学んだことの有る者であれば、普通はこのような事は恐ろしくて出来ないはずであるが、どうも罪悪感という物が人格上欠如している人間らしい。

②唱題会参加に対する妨害

それだけでなく、肝心の、(唱題の約束の) 次の水曜日の日に、極楽寺氏はわざわざ小林達哉さんを、食事(ラーメン)に連れ出してしまったのである。約束の時間に、達哉さんは家に居なかった。私が体調不良(腹痛)で達哉さんのお宅に遅刻していったのでちょうど会えたのであるが、行って本当にびっくりした。約束は9時で、その事も創価班の時に私は言っている(当然極楽寺氏も知っている)のだが、それを知っていて9時を過ぎるまで小林達哉さんを連れまわし、参加できない様妨害したのである。

③会友に対する、極楽寺氏のデマ

さらに、そんな事があってから数日後、極楽寺氏が達哉さんの悪口を触れ回っている事を加藤本部長(当時)から聞いた(と言うより、本部長はその時半分、吹き込まれた状態であった)。

「達哉さんって、パーフェクトTVの見過ぎで生活が乱れてて、体の調子がおかしいんだって？極楽寺さんがすごい剣幕で怒ってて、そう言ってたけど」と、私に言われたので、私はびっくりした。極楽寺氏の、でたらめの作り話である。実際のこの時の達哉さんの病名は「高脂血症」であり、長年の食生活の乱れから血液がどろどろになり流れが悪くなり、高血圧などを引き起こす病気である。心臓に負担がかかっている、脈拍に不整脈も出ており、ずっと医者(○内科)に通って治療を続け、薬を飲みながら食生活を改善して治療していた。この病気の事は達哉さん本人からも、私からも極楽寺氏には伝えてあった事なのであるが、それをわざわざ捻じ曲げ、**デマの病名を学会組織に垂れ流して**まで、**徹底して折伏の妨害**をしようとは、そして会友の悪口をまわりにふれて回ろうというのは、一体どういう神経の持ち主なのか。生命がとことんまで狂い切っているのである。

この1件を見るだけでも、どれだけ極楽寺氏が狂い切っているか、学会の組織に対しどれだけ危険な人物であるのか、理解して頂きたいと思う。

私は何年も、この極楽寺氏の行動を見て来たのだが、このように「誰々は生活態度(や信心状態)がとんでもなく悪いから、僕は心配だから指導に通っている」などと言いながら実際には真っ赤なうその話を学会員にたれながし、その上で本人をしつこくいじめる(周りには指導、と称して)というのは極楽寺氏のパターンの一つである。まわりがすっかりだまされるのを見計らって、徹底的に、しつこく嫌がらせを繰り返すのだが、周りがそれに気が付かず、逆に学会員がいじめに加担してしまう事が今まで多々あった。

この時の事も、周りに小林さんの悪口(作り話)を言う事で、自分のいじめを正当化した上で

いじめと折伏の妨害を実施しようとした、ひとつのパターンである。(副部長、部長時代の常套手段であった。)

ところで当時、私がこの件を王貞春さん(第四地区地区部長)に相談したところ、「おもしろいじゃないか! ?」などと訳のわからない事を言われ、全く話にならなかった。折伏が潰されたと言うのに、問題にするどころかかえって「面白い!」などとふざけて話を聞こうとしないなど、黒岩支部の壮年部の人達は、どうしてこうも極楽寺氏の話になると狂った対応しか取れないのだろうか??

徹底的に、極楽寺氏に洗脳されているのか、それとも極楽寺氏がタチが悪いのを恐れているのか、どちらかであろう。

この事は、別に王さん一人の問題ではなく、黒岩支部の組織のあり方そのものの、根が深い問題であると思う。これでは脱会者がいくら出ても、少しも不思議ではない。解決すべき問題点が、間違いなく存在している。

N 町部担当の件

極楽寺氏が副本部長時代、N 町の担当であったが、副本部長になってしばらくして極楽寺氏は組織活動から離れてしまった為、N 町の南部秀雄部長(当時)が、たびたび部長会で加藤本部長(当時)に苦情をもちかけていた。極楽寺氏は最初、携帯電話ももっていなかった上、極楽寺氏の母親は信心反対で電話の伝言を取り次がない、しかも周りが、連絡方法を決めようともちかけても、極楽寺氏は「僕はもうすぐ携帯電話を持ちますから、そちらに連絡して下さい」などと言いつけるのみで連絡方法を定める話からは逃げ続け、なかなか携帯電話など買わず、連絡が付かない状態であった。しかも買ってからも絶対携帯の電源は入れなかった。しかも部長会も本部長会にも参加せず、日程表も持たず、全く組織から離れていた(なぜこんなくたらない人間が、先のようにわざわざ黒岩部の折伏を妨害するのか! ?)。

私が文書にして残してある記録では、98年5月27日の部長会(9時半~)終了後、秀雄さんが苦情を述べている。極楽寺氏がどうして会合に参加しないのか、という事、もうN町に入ってもらわなくて良いです、携帯の電源がいつも切っており連絡が全く通じない、部長が連絡を入れないと極楽寺氏が会合に出てこないのでは極楽寺氏は部員さんと同じである、選挙の戦

いも全くやらない、事等があげられた。

秀雄さんが苦情を言っていたのは、この一回だけではない。「派遣幹部のくせに、部長から連絡しない限り日程の事も知らないし、部長が結集をかけないと会合に参加しない幹部なんて、そんなの派遣幹部じゃなくて派遣の部員だから、そんなの N 町には要らないから、もう極楽寺さんは N 町担当から外してくれ」と、度々部長会で加藤本部長に苦情を訴えていた。

私は詳しく知っているわけではありませんが、地方選の戦いの折、R 本部で S 議員を推していた時、その地元の S 町で婦人部の逆鱗に触れたらしく、「もう彼は 2 度と S 地区に入れないう」とも言われていた。

あいさつ無しに帰る（ここは大した内容ではありません、読み飛ばして頂いて結構です）

これは大した話ではないのだが、このころ、極楽寺氏は信心の上でなにか多少厳しい指導をされると、だまりこくってしまい、いつのまにか挨拶もなしに帰ってしまう事があった。（黒岩部にいた時には、うその話で開き直って平気で切り返していたのだが）。

例えば部長会で、M 部の N 部長（当時）から、「極楽寺さん、中等部の件、どうなってるよ〜？」（極楽寺氏は本部中等部長だったが、連絡を止めてしまっていた為）と言われたくらいで返事もせず黙りこくってしまい、そのままいつのまにか挨拶もなしに帰ってしまったらしい（私は当時まだ地区リーダーでしたので部長会には参加していませんでしたが、当時部長の北条君から聞きました。）自分が連絡を止めて皆に迷惑をかけておいて、一体何様のつもりなのだろうか？

それから、MN 支部で F という店を経営している婦人部の方が言っていたのだが、「あの、今度 N 町に派遣で入ってきた極楽寺さんって人、一体どういう人〜?? 私、会合でその人がいて、すぐに変な人だって分かったから、一言きつい事を言ってあげたの〜、そしたら、だま〜ってずっと下向いてて、そのうち挨拶も無しに帰っちゃったの〜！あれ、黒岩部で一体どんな人だったの〜？」と言っていた（と、母から伝え聞いた）。

黒岩部にいたころは、周りは、かばってあげる人ばかりだったのである。（周りでかばうあまり、口車によって逆に極楽寺氏に振りまわされ、うその話も見破れなくなってしまっていた。）

とにかく私が副部長になり、部長会に参加するようになってからは、一度も極楽寺氏を R 本部の部長会で見たことは無い。本部長会も、ずっと参加していない。加藤本部長がどれだけ家庭訪問しても出てこなかった。何が不満だったのか知らないが、自分は後輩を徹底的にいじめて来た上、まわりには指導だなどと言って来た本人が、少しくらい組織の中でうまくいかなかったくらいで何をいじけていたのだろうか。

このように、副本部長時代には全く組織に付く気も無く、そのくせ黒岩部の折伏の妨害をするなど、ちょこまかと異常な行動を起こしては周囲から問題視されていた極楽寺氏であるが、こ

れから報告する副部長時代～部長時代には、少々事情が異なる。

繰り返し組織を破壊し続けたにもかかわらず、まわりが気付かず、やりたい放題の行動を5年間くらいもの間、手放しで許す結果となってしまった。彼がどんな酷い行動を取ったとしても、黒岩支部の4者から問題にされる事は、決して無かったのである。特に部長時代には、「獅子身中の虫」としての行動がエスカレートしていき、手の施し様が無かった。

以下の文では、副部長時代からの極楽寺氏の行動について報告します。

副部長時代

(事実と全く違う捏造ネタの噂話を、組織に垂れ流し始めた頃)

～ちなみにこの頃の部の活動者会、参加者は2人の時もあれば多くても7、8人でした。それを前提に読んで頂ければ、率としては「活動家の大多数」が狂っていたとすることがわかるかと思います。何しろ部長、副部長の3名全員が狂う結果となりましたから～

就任の時

極楽寺氏が地区リーダー時代からずっと見てきたが、会合中でもごろごろ「眠い」と、すぐに横になって寝てしまい、会合の日程や組織の流れなど、全然把握していない事が多かった。勤行中も居眠りが多かったが、たまに意識がはっきりしている時があるとやたら声が大きくしかもリズムがでたらめで導師に合っていない勤行唱題を行ない、私などは(となりに極楽寺氏がいると困って)時々しばらく黙って導師の声を確認していたりすると極楽寺氏がじろじろ私のほうを見て、あとから「やっちゃん(私の事)の題目はおかしい」などとぐずぐず言うのであった。何度もしつこく同じ事を繰り返されていたのだが、私は彼を、一体どういう人なのだろう、ちょっと頭が変みたいだけ、信心しているからだんだん直るのだろうか、というくらいにしか考えていなかった。

その極楽寺氏が副部長になった。岩志水部長(当時)から、「彼は本当に力の有る副部長で、最近はカウンセリングの資格にも合格した。本当に優秀で・・・」などと紹介していた。

当時は心理学がとてはやっていて、岩志水部長もお気に入り時々会合の場で心理学の話などもしていた。ただ、私は高校時代の担任教師がカウンセリングの資格を持っていて、心理学の話ばかりしていて、いじめを容認し「いじめをする人間は優秀で、社会に出て立派になる。いじめられる人間は人間として欠陥がありしかも他人に対してばかり完ぺき主義で、人間として劣っている部分が多い。いじめられる人間には、そうなる原因がある。これは心理学上でそういう事になっているんです。」など、いじめを心理学の上から容認する発言をホームルームなどで繰り返しているところを見て来たため、あまり良い印象を持たなかった。(後日、創価大学の通教の教育学部に所属してみて、日本の心理学界にはいろいろ問題点が多い事も知った。教育心理学など、権力者に都合の良い学問だった部分がある)しかしこの時、まさかこのまじめ

な部長が、これから極楽寺氏のいじめを容認してしまう、とはそのときには考えてもいなかった。

長島重雄副部長（当時）の件（地方選？の、豊橋応援の件）

当時副部長であった長島重雄さんと、現黒岩支部長のOさん（この時は別の部でした）が当時の選挙で豊橋の応援担当のペアとなった。大変激戦だったようで、かなり体力も消耗する、大変な戦いだったらしい。

ところがこの長島さんの留守中、極楽寺氏は長島さんの悪口で、さんざん組織を盛り上げてしまう。部の活動者会は毎回長島さんの悪口で盛り上がってしまい、最初は私も皆に同意していたのだが、毎回異常に盛り上がるのでどうもおかしい事に気づき、それで悪口には加担しないようにはしていた。本当はこのような間違いには断固反対すべきだったのだが。

派遣に出ていてその場にはいない長島さんの悪口で、組織を盛り上げる

例えば長島さんは最初から、「忙しすぎるので、とにかく部の活動者会に毎回欠席の電話連絡等は出来ないし参加もできないが、了解してくれ」とたびたび極楽寺氏と岩志水部長に言っていたのだが、その件で本人が居ないところで盛り上がるのだった。極楽寺氏が「今日もまた連絡が無い。長島さんは、もうすっかり、昔からの信心の切れ味はなくなってしまった、ア～（気持ち悪いため息）、いつからこんなふうになってしまったんだろう・・・」などと意味不明の訳のわからない事を言い出だすと、岩志水部長はじめ北井地区リーダー（当時）等、皆が悪口で盛り上がり出すのである。とにかく長島さんの信心は狂ってしまった、どう指導したらよいか、この間なんか忙しいと言っているくせに家に車があった、などという話で毎回盛り上がるのである。岩志水部長から私には、「とにかくやっちゃん（私の愛称）からきつく突き上げて、後輩からきびしく指導してあげて。長島さんの生命を切つてあげないといかん」という話が何度か有った。それから、私とK地区リーダー（当時）と2人で長島さん宅に信心指導に行け、という話になって日曜日にペアで行った事もある。行ったところ長島さんは大変疲弊している様子だった。

長島さんが会合の数日前に「この日は参加できないから」ときちんと伝えても、「それは会合当日の会合が始まる時間にちゃんと電話をかけてこないと、受け付けられない」と、毎回連絡は却下されていた（後日、私が同じ事をやられる事になった）。それで当日の会合開始の時間に電話が無いと、皆で盛り上がってしまうのである。今のように携帯が普及していない時に、である。

大変な場所で真面目に活動している人を皆で悪く言っているのを私は放っておいて止めなかったのだが、その私に、今度は悪口が集中する事になる。

青年創価合唱団の件

私と極楽寺氏で、池田先生を迎えての文化祭に合唱で出演した。

その文化祭の練習の、青年創価合唱団の態度が気に入らなかったのか、合唱団の悪口を言い出

した。また、私のプライベートの部分について、捏造したデマを学会の組織に流し始めた。当時、私の家は両親が仕事に失敗し、それから私は若年であったため給料も少なく、切り詰めた生活をせざるを得なかった。都議選など経済負担が大変であったが、広布基金は何とか2桁を目標にがんばっていた。とにかく、一家離散してしまうような悲惨な状況ではなかったし、その事自体について私はあまり悲観しないようにはしていた。ただ、その事をねじまげられ、合唱団を中傷するねたにされてしまう事が、非常につらく、耐えがたかった。

ちなみに私の過去の給料明細を見ると、残業を全くやらなかった平成3年2月、手取りの給料は**8万1千633円**である。この金額に残業手当が付く、と考えれば良い。(自動車ローン13800円、生命保険8830円を引いた額) この様な給料で家には毎月5万円を入れなければ家族3人生活できなかつたのである。

(もう少し給料が上がった時点で、毎月7万円を入れるようになり、さらに家のローンも私が払うようになった) しかし新聞代を入れられないのはいけないと考え、生活費とは別に、毎月払っていた(この新聞代の件すら、組織には捻じ曲げられて伝えられた。私が親に新聞代を払っていない、などというのである!)。生活費が足りない分をカードローンで借入れをし、ボーナスで返済するつもりでいたが、だんだん増えていった。都議選など、交通費やガソリン代などが足りない時にはそれも全てカードローンで借入れていた。母親は生命保険の解約や保険屋からの借金(個人で貸して貰って利子なしで返済)貯蓄の切り崩しなどで生活を支えていたが、底をついてしまった。父が土地を手放さず、仕事も変えず、また遊び癖も直らなかつた為生活は向上しなかつた。私が通っていた夜間大学などは、〇年間全ての学費が免除になった(成績は中くらいだったのだが、あまりに生活がひっ迫していたので)

そのような時に、極楽寺氏が、私の生活に関しとんでもないでたらめの噂を組織にたれ流し、その捏造ネタをダシにして、青年創価合唱団を批判し続けた。

「合唱団は担当幹部が狂っている。合唱団が狂っているので、やしのみ君の信心が狂い、生活が狂っている。いい会社に就職してたくさん給料をもらっていて家に大して生活費も入れていないくせに、いつもサイフに金を持ち歩いていないし、服も安い変なものばかり着ていたり、作業服のまま会合に参加したりして、法を下げている。それから、**新聞代を親にはらっていないので、親が学会のことをおかしく思うようになってしまい親の信心が狂い、学会の敵になってしまっている。実はやしのみ君がいつも金がないのは、いつも中古の古い車を買ってきてはそれに新車以上の金をつぎ込みそれをまたすぐに手放して次の古い車を買ひ、また金をつぎ込んでいるからで、信心が狂ったので生活も狂っている。それでやしのみ君は合唱の練習ばかり熱心にやっていて、男子部の部員さんを全く回らない。合唱団が信心を狂わせている**」といったデタラメの作り話の捏造ねたで、合唱団と私個人の事を誹謗・中傷し続けた。(これを聞き、反論してくれた上で私にこの件を教えてくれたのは、私が折伏した小柴班長だったのだが、この時反論した上にその後会合に出なくなってしまったのを、今度は極楽寺氏が小柴君の悪口で組織を盛り上げてしまい、幹部もまきこんでひどい目にあわせ、すっかり小柴君を退転状態にしてしまった。

後述する。)

当時、私は、車なんかはたいてい4万キロ走行くらいのを車検付き諸費用込みで20万円くらいで買ってきて、それを10万キロくらいまで乗って手放すようにしてそれを繰り返していたのだが……。とにかく当時は車にかかる金など無かったのである。修理や部品交換といっても一台でトータル5万円か10万円のレベルである。どんどん部品を換えて金を注ぎ込んでいる、などと何度か面と向かって言われたこともあるが、よくもでたらめな、ありもしない話を作った物である。

親が仕事に失敗して私が両親をずっと養ってきたのに、なぜこのよううそがまかりとおってしまったのか。車に金をつぎ込める様な給料などもらっていないのに、当時心配して長島さんや奥入瀬さん（当時第三地区の地区リーダー）などはたびたび私に車の件で厳しい（誤った）指導をくりかえしてくれたのだが、その時にどれだけこちらが給料や家庭の事を説明しても、何ひとつ聞いてはもらえなかった。毎月の給与がいくらくらいなのか、それだけでも確認してもらえればすぐにでも理解してもらえた話であるのに、すっかり周りが極楽寺氏に洗脳されてしまっていた。

それだけでなく、私が仕事で多忙の時に欠席した会合で、「今合唱の練習に行っていて会合を休んでいる」などとうその話で会合を時々盛り上げていた。例えば毎週月曜日には7時から地区協議会がありまたそれが終了後には9時半から支部の男子部と壮年部の打ち合わせをやっていたのだが、私の仕事が大変で夜中に帰宅していたような時に極楽寺氏が「やしのみ君は合唱団の練習で会合を休んでいる。月曜日に青年創価合唱団が練習をやっているのはおかしい。なぜ地区協がある日などに練習をするのか。狂っている」などと全くの捏造ねたで、合唱団の悪口で何度か月曜日の会合を盛り上げてしまっていた。地区協議会のある月曜日になど、合唱団は練習など行っていない。よくもよくも作り話ばかり流布して、学会の人材Gを誹謗中傷し続けて、自分の行動が恐ろしくないのだろうか。しかしこの事を私が説明しても、誰一人信じてはくれなかった。

組織が、この様な話で盛り上がってしまったため、他のところでも私の連絡が受け付けてもらえなくなってしまう。例えば、私が仕事で帰宅が遅くなる事を地区協議会の前日などに地区部長に連絡しても、「会合の当日の開始時間にくれる連絡以外は、絶対受け付けられんよ！連絡報告は学会の大事なところだから、連絡の時間も徹底してもらわないと困る。お前はそこのところがネジが外れてるんだから、もっとしっかりしろ！」などと、全く受け付けてもらえなくなってしまう。（以前、長島副部長がされていた事と同じ事を、今度は私にされたのである）それで前もって仕事で遅れる件を伝えてあるにもかかわらず、いつも合唱団の練習が有るような話で皆が盛り上がってしまったのである。又、長島副部長からも再三、「とにかく会合が始まる時間に、仕事抜け出してでも何でもして、かならず電話入れろ。とにかくこのままじゃ大変なことになるで」という話が繰り返された。よほどひどい話で盛り上がっていたのであろう。

また、男子部の組織で起こった事の例であるが、一度、私が仕事で遅くなり男子部の部活動者

会に出る事が出来ない時、(部長には前もって連絡しておいた。また、父には仕事で家に帰れない事を電話で説明し、くれぐれもし極楽寺氏から電話があっても、まちがっても合唱団に行ってるなどと言わないように、と釘をさしておいたのだが) 会合中に極楽寺氏から私の家にわざわざ電話があり、「やしのみ君は居ますか？留守ですか……。また、合唱団の練習でしょうか……。？」と電話がかかってきたのを、うちの父がボケて「え？あそうそう。合唱の練習ですよ」などと言ってしまった為、そこから部の組織が合唱団の悪口で一気に盛り上がってしまった。やしのみ君がうその連絡をしていた、仕事が忙しいのはうそで、実際は合唱団の練習に参加するため活動者を欠席している、という事になり、それ以後はいくら仕事で遅刻する連絡をしても、信じてもらえなくなった。(実際に合唱の練習に私が参加していたかどうかくらい、確認の様はいくらでもあったはずだったにもかかわらず、このように極楽寺氏のデマに男子部の組織がおどらされてしまっていたのである)

当時の「やしのみ君が部員さんを一切回っていない」、という話の出所にも、おかしな経緯がある。私が地区リーダーになってからすぐ(このころすでに、おかしな雰囲気はちらほらあったのを私もうすうす感じていた)に、岩志水部長から「一人で部員さんを回って、まず苦労を経験するように」という話があったのだが、こちらも池田先生から名前を頂いた合唱団員として組織の中で実証を示していこう、と地区リーダーになり決意し、一人で回っていたのだが、それを報告しても一人で回っている為、当然証人がいない。いくら回っても、「合唱のことばかりしていて部員さんは全く回っていない」という話になってしまうのである。結集の戦いの時に合唱の練習が重なった時など、必ず部員さんを回ってから合唱の練習に(遅刻して)参加するようにしていたのだが、極楽寺氏に平和で合うと必ず「あれ、なんでこんな大事な時に平和にいるの？」などという話になってしまい、そこで部員さんを回ってから来ました、と説明しても一切受け付けられなかった。

この、私一人で回るという件については、しばらくして壮年部の王地区部長がクレームをつけてくれたのである。王さんが男子部の会合に来て、「何で新任のやしのみ君が一人でまわらなきゃかんのか、そんな馬鹿なことはやめろ、きちんとフォローしろ」と言ってくれたのである。が、それを機に、ますます私に対する嫌がらせがエスカレートしてしまった。数度、岩志水部長から私の家に「今日は合唱の練習は無いの……。今日は地区を回れるの……。？本当に合唱の練習は無いの……。？一緒に回りたいんだけど、時間とれるかねえ……。？」などと電話がかかってくるようになってしまい、また一緒に部員をまわっている間、時々合唱団の悪口などで遠回りに説教されるので、全く閉口してしまった。

ちなみに岩志水部長に、合唱団の練習日程表を渡そうとしても、受け取ってもらえなかった。手にとり一瞥したかと思うと「ふん」と言いつき返されてしまったりした。2、3度、練習日程を知ってもらおうとしたのだが、無視されてしまったので、以後日程表を渡そうとするのはもう止めた。本当にひどい盛り上がりようであった。

小柴君(男子部班長) 退転状態の件

先にも少し書いたのだが、この合唱団の悪口が飛び火して、私が折伏した小柴君が、組織から離れてしまう。

・最初のきっかけ（デマを見破られた極楽寺氏が、小柴君についてデマの情報を垂れ流す）

①小柴君に、私に関するデタラメの情報を吹き込もうとして、かえって見破られてしまう

小柴君は住所からすると第二地区だったのだが、折伏したのが私だったので、ずっと第四地区の所属にし、それまで私の担当にしてあったのを、ある統監の時に第二地区の所属とし（住所通りに戻し）て、家庭指導は極楽寺氏が担当になった。

それから度々、小柴君からは「極楽寺さんから連絡が来ない。来ても前日だったり、そのくせ無理やり誘うから困る」といった苦情が寄せられた（極楽寺氏の連絡があまりにもルーズすぎるのである。小柴君も、もともとわがままな人であったのだが。ただ、〇の文化祭で〇〇隊に参加したのをきっかけにだいぶわがままが直っていた）。

そんなある日、小柴君が夜、深刻な顔をして「相談に乗って欲しい」と、私の家に来た。

そんなわけで彼の車の中で話を聞く事にした。内容は、極楽寺氏についてであった。

その話の内容が、先に書いた私の生活態度に対するでっちあげの中傷誹謗である。極楽寺氏が小柴君にでたらめを吹き込もうとして、小柴君が反論したところよけいむきになって手がつけられない状態になってしまったと言う。小柴君は入会する以前から私の家の経済状況はよく知っていたのである。（いつも金を持っていない私に、いろいろとご飯をおごってくれていたりしていた。）あまりに事実とかけ離れたでたらめな作り話を極楽寺氏から

されたので、この時は反論してくれたのである。しかし、極楽寺氏はますますむきになってがたがた話を繰り返すばかりで、小柴君の話は一切受け入れてくれなかったそうである。

そして小柴君は、「もう、あんなおかしい人がいるような会合には行きたくない。」と言い出した。それについて私は、とにかく会合に出て、それで極楽寺氏の話が間違いである事を私と一緒に証明してほしい、とにかく悪に負けたら自分が損するから、このまま続けて会合に参加してほしい、とお願いした。しかし、もう部の会合には参加しなくなった。

②自分の素性を見破った小柴君に対し、悪口で組織を扇動し盛り上げる

小柴君からこの話があって次の、部の活動者会で、早速極楽寺氏が小柴君の悪口で組織を盛り上げ始める。

「小柴君の態度が最近おかしい、どうもおかしい」などと深刻そうな声で切り出し、「実は、小柴君から、絶対人にはばらさないでくれって言う事で、仕事をやめたいなどという相談を度々受けるのだが、ぐずぐず愚痴ばかり言うくせに絶対会社を辞めない。小柴君は狂っている。あいつの信心が狂っているから生活が狂うのだから、徹底して厳しく指導して活動させ、一年くらいで地区リーダークラスの信心にしなければならない。」などとプライバシーに関わる話を活動家全員の前でばらし、そのくせ極楽寺氏自身が作り話を吹き込もうとして失敗した事などには一言も触れず、例によって会合を盛り上げる。小柴君がわがままなのを巧みにクローズアップし、極楽寺氏の連絡がルーズすぎる事や私の悪口を吹き込もうとして反論された件は一切触れない。まるで自分は小柴君の事が心配で心配でたまらないのに小柴君がそれを分かってくれ

なくて困る、という内容の話を何度も繰り返すのである。

それで、岩志水部長と極楽寺氏が組んで、何度か小柴君の所へ指導に通っていた（しばらくして私は出入り禁止となった）。岩志水部長が単独で行ったこともある。その指導の時の内容の話で、また会合が小柴君の悪口で盛り上がる、といった具合であった。例えば岩志水部長が訪問したら、小柴君が「岩志水さんはいい人だが極楽寺さんとはとんでもない人だ」と言ったのを、その内容が部の活動者会で取り上げられ活動家みんなが小柴君の悪口で盛り上がる、といった具合であった。

③組織が盛り上がり、小柴君に対する嫌がらせが始まる

・「やしのみ君が連絡等に行くのは禁止。会っても話を聞いてはいけない」

このようにして、小柴君は会合に参加しなくなり、私の家に来て岩志水部長や極楽寺氏が家庭訪問に来てどんな話をしたか、度々話に来た。又、私が折伏した相手であり同い年ということで時々私が小柴君の所へ遊びにいったり活動に連れ出したりしていた。

その事について岩志水部長より、「やしのみ君が連絡等に行ってはいけない。会っても話を聞いてはいけない。やしのみ君は甘やかしてしまうし、本人のために良くない」との話があり、私が指導に行ったり小柴君の話を聞いたりするのは禁止されてしまった。

そして、小柴君に対し、指導との名目で、組織をあげての嫌がらせが始まってしまった。

・わざと遅い時間に電話と家庭訪問

小柴君からは、「父親（未入会）の仕事が朝早いので就寝も早い、電話は9時までにしてくれ、訪問も前もって必ず連絡をよこしてから来てくれ、連絡無しでおそい時間に訪問するのはやめてくれ」という様にたのまれていた。その事も部の活動者会でとりあげられ、小柴君がわがままで狂っている、このままでは小柴君は活動家になれない、という話で盛り上がり、遅い時間に岩志水部長が「連絡する事があるから、本人の為にも、この時間からあえて電話する」と言い、部の会合が終わってから10時半すぎにわざと電話をかける、といった事を何度かしていた。電話の向こうで小柴君が怒っていた様であったが、岩志水部長は電話口で「え？何で？何が悪いの??」と半分ふざけたような声で言い、相手にしなかった。

又、確か極楽寺氏が家庭訪問して小柴君を徹底的に怒らせた次の日に、鈴木誠ゾーン男子部長（当時）と、岩志水部長、極楽寺氏、それから私も連れ出され、わざと遅い時間（夜10時過ぎ）に事前の連絡もなく小柴君の家へ家庭指導に行った。当然小柴君は激怒して、夜遅い時間で父親が寝ている事もあり小さい声で「何でこんな時間に来たんですか。連絡はくれって言うてあるでしょう!？」といった話があったが、だれも耳を貸さず、帰宅時には皆で「やっぱり信心がどうかしてしまっている。態度がおかしい。狂っている。徹底的に厳しく指導して、何とか立ち直らせてやる」等、3人が車中で盛り上がってしまっていた。

このころ、私は何度か、私の兄（当時の役職は？）に相談を持ちかけようとしたのだが、もう先に話が吹き込まれていたらしく、私が少し小柴君の名前をあげただけで「小柴君みたいな女みたいな根性のやつはおかしい。あいつは男ではない。女だ!」等、先に言われてしまい相談にならなかった。

兄が部長時代には、小柴君を折伏する時にはいろいろ丁寧に指導してもらったり、小柴君の悩みを聞いてもらったり、私も兄から「とにかく何があっても小柴君の生命をつつみこんであげるように」との指導をもらったりして、本当に兄は丁寧に小柴君の面倒をみてあげていたのだが、態度が急変してしまい相談には一切のつてもらえなかった。

極楽寺氏が副部長になるまでは、黒岩部はこの様な雰囲気の一部では決してなかった。

それまで岩志水部長は、部員さんにつくす人のように見えたのだが、とにかく極楽寺氏の恐ろしい所は、人をだまし、煽動し、組織破壊に利用してしまう事に有ると思う。他人を盛り上げておいて、その盛り上がった他人を先頭に立たせて嫌がらせをする（させる様に仕向ける）のである。それと、組織が盛り上がるまでは自分からはあまり手を出さない。

ところで後日、極楽寺氏が創価班で怠慢な態度をとり続けた時、総括だった岩志水さんが極楽寺氏をかばってしまっていたのだが、この様な狂った人間を、絶対かばってはならない。~~現在~~
~~も~~、極楽寺氏の入院の件で必死にかばっているたようだが、獅子身中の虫の思う壺である。もし地区で彼の指導が出来ないのならば、上から厳しく指導し、狂った人間に対して学会はどのような指導をするべきなのか、地区に示す必要がある。

また、これも後年の事だが、再び極楽寺氏（当時部長）が小柴君の悪口をぶり返した時に北条君と大島君（当時、両方共地区リーダー）が、極楽寺氏の言う事を真に受けて「本当に極楽寺さんが小柴君の事を心配してくれているもんで」などと言って私の説明を聞いてくれなかったが、後日その北条君も大島君も極楽寺氏からのイジメ（都議選支援の妨害、等）にあう事になってしまった！

悪は攻めなければ、組織は潰れる。魔に対する周囲の意識が、絶対重要なのである。

この頃、私に対する周りの方の態度が急変した。

・ **多喜支部長（当時）「新聞代は一体どうしているんだ！」**

壮年部と男子部が集まる月曜日の9時半からの会合を、毎週支部長宅で行っていた。私が仕事で参加できない時は、私に対する誹謗・中傷で会合が時々盛り上がっていたようである。仕事が早く終われば私も参加していた（月曜日に、合唱団の練習は無かったので！）。遅刻して参加した時に、支部長から私の生活態度の事で、本当に、全く身に覚えの無い事でどやされたりした事があった。

「ちゃんと生活費は家に毎月入れているのか！？新聞代は一体どうしているんだ！？

ちゃんと親に毎月払っているのか！？」

などと、全く身に覚えの無い事実無根の話で、いきなり支部長からどやされ、私が少し言い返しても、慥然とされて聞いてもらえない、といった事があった。こんなでた

らめな話で、当時、支部の会合が盛り上がっていたのである。

・奥入瀬地区リーダー（当時、第三地区）から、生活態度の事で何度か指導

時々、部員さん回りのペアになり一緒に活動している時に、何回か繰り返し、「何で車にお金ばかりかけて、すぐにどんどん換えちゃうの？ どうしてすぐに手放しちゃうの??」と、事実と違う話で厳しく指導され、こちらが何か説明しても、絶対聞いてはもらえなかった。

奥入瀬さんはとてもやさしい方なので、その人からこの様に、事実と違う、しかも小柴君が退転状態になったそのきっかけでもあるとんでもないでたらめの話で指導されるのが、どれだけ辛かったか知れない。

・王地区部長

最初は、相談にのってくれて、苦情を言ってくれたりしたのだが、全く相談を聞いてくれなくなった。極楽寺氏の事を相談しても、いつも首を横にふるだけで何も聞いてくれなくなった。

・長島副部長の、態度の急変

これらの事が起こる前は、「いつもお金がなくて大変だから」という事で度々食事をおごってくれたり親切にしてくれていたのだが、この頃態度が急変してしまった。

一緒に活動する機会があると車の中で度々、やしのみ君の金使いがおかしいとか車に金をかけすぎだとか家に迷惑をかけて法を下げているとか、あと本当に些細な事で、例えば車でせまい曲がり角（ナツキペイントをもう少し西に行ったところ）をよけ次の曲がり角に行くと「さっきの曲がり角を曲がれない根性無し、おまえどっかおかしくないか？」といった話を、同じ事を何度も度々繰り返し言われるようになってしまった。こんな些細な事をなぜ何度も言われたのか、今でもわからない（言った本人も忘れていた様である）。

それから、こんな事を何度か言われた事がある。「やっちゃんのお母さん、信心が狂ってるんだって？最近大丈夫なのかねえ??」で、理由を聞くと「極楽寺が「やっちゃんのとこに電話すると、お母さんがすごい変な声で電話に出る、とにかく母親の信心が狂ってる」って極楽寺が言ってたから。どうなの最近？」

この話は、何度か長島副部長の口から出た。極楽寺氏が、私の母の悪口を組織に垂れ流していたのである。しかし、実際は全く逆である。おかしい気持ちの悪い声で度々極楽寺氏から電話がかかってきていたのを、うちの母が「極楽寺君最近おかしくない？いつも変な、気持ち悪い声で電話してきた」と、とても嫌がっていたのである。

しかし、組織の中で、うちの母の信心が狂っているという事になってしまい、私は長島副部長から数回「母親は子供の魔になるでな。子供を守ろうとするあまり活動からどうしても遠ざけようとするでな。とにかく魔を切らないといかん。御書にも・・・」と一生懸命指導されたのだが、一般論はわかるのだが、別段うちの母は活動に一切反対していないのである。それが、これではまるで母の信心が狂っていて、それで私が活動に参加するのを妨害されているような話ではないか！よくもよくもこのようなでたらめな作り話を次から次へと垂れ流せるものである。

この頃は、極楽寺氏の事実無根の話が、何でもそのまままかり通っていた。

長島重雄さん（当時地区リーダー～副部長）のやった事は、

- ・ 合唱団の発声担当者と県男子部長の「合唱団員のいる会合は禁煙に」という指導に反発し「わざとタバコをすってやる」などと岩志水部長と共に酷い喫煙をし続け、反逆の狂った一念で私を発病させた。又、その後壮年部になっても地区協議会終了後喫煙を続け、タバコが無くなると王地区部長のお父さんに「すみませ～んタバコちょうだい」などとねだってはさらに喫煙を続け、私が体調不良をいくら訴えても喫煙を続け、運動不足で根性無しなどと言いがかりをつけ、さらに手足の脱力からまともに歩けずに帰路についている私を「早く歩けこの根性無し！」などとバイク上から罵倒したりした。（この時既に発病していたのである）そして今、私の病名が判明してから~~2年半~~4年以上たっても一切の謝罪も無い。

秋谷会長（当時）から拠点での喫煙防止が通達され組織に徹底された時も喫煙をし、王地区部長が「何やってるだ重雄！秋谷会長も禁止だって言ってるじゃないか！」と怒り、私も「体がおかしくなって会社に行けなくなりますから」ときつく言ったにもかかわらず「ああ～そんな事はどうでもいいんだよ～」などと言いながら喫煙し続けた。

長期に渡る受動喫煙が、私の病気を慢性化させる原因となってしまった。

- ・ 極楽寺氏にそそのかされ岩志水部長（当時）と共に小柴君をいじめ、組織内で悪口し盛り上がり小柴君が退転状態になっても反省しない。
- ・ 私が地区リーダーになったと同時に長島さんは副部長になり、「俺はやしのみ君と一緒に回ってはいけないと言うことになったから」と言い岩志水部長（当時）からも「やしのみ君は一人で回るように」と言われたので一人で部員訪問し続けたところ今度は活動していないなどとデマの話で部が盛り上がってしまった（私は一人で回っていたので、活動していても証人がいない）

ちなみにそれ以前、長島さんが地区リーダーで私が副地区リーダーの時には長島さんが多忙？で部員訪問が全然出来ない時期が有り、私が誘っても長島さんが活動できなかったので私が一人で回っていたものである。後日、組織内で私が活動していないなどという話が盛り上がったとたん長島さん自身もイジメに加担し、長島さんの分も副役職の私が活動していたという事実は隠蔽した。内部の対話も会合の連絡も私一人でやっていたのに！

- ・ 極楽寺氏が垂れ流し続けた私に対するデマの誹謗中傷について事実の確認も行わず私の説明も無視し、そのまま信じ込んだ。特に車についてのデマについてはその後10年経ってもまだ信じ続け、私を恫喝・罵倒した。今でも信じているのではないか？
- ・ 長島氏は、極楽寺氏からだまされて信心が狂ってしまった事に早く気づき、今後2度とこのようなイジメに加担しないよう深く反省し自分の信心を見直すべきである。
だまされて狂い、私をこのような病気にし慢性化させ私と私の家族を地獄に突き落とした事に対し謝罪すべきである。病名判明後すでに2年半が過ぎている！

・高木本部長（後年、〇〇〇研修道場館長になった方）が指導に

高木さんが、私の信心が狂ってしまったと聞き、心配して家まで指導に来てくれた。

「今から部員さんを一緒に回ろう」と言ってくれ、一緒に回った後、合唱団に入った理由などを聞かれ、「合唱団の練習は楽しいものだから、ついそちらばかりに行っておろそかになってしまう。ずっと全然部員さんを回っていなかったのだから、とにかくこれからは部員さん回りを頑張ろうよ」と言ってくれた。

なぜ、「ずっと全然部員さんを回っていなかったのだから」という、事実と全然ちがう話になってしまうのか、その時大変つらいと思ったのだが、言い返すのも嫌で、そのまま素直に話を聞いていた。

回っている間に、私は高木さんに、いろいろと部員さんの状況について知っていることを説明するようにし、普段きちんと家庭訪問している事を理解してもらおうと思ったのだが、それでも先に吹き込まれている誤解は、残念ながら全く解けなかった。

・吉永百合支部婦人部長（当時）

それまで大変かわいがっていただいていたのであるが。

何かの、支部の4者の会合終了後、私と極楽寺氏が居る所へ来た支部婦人部長から

「極楽寺君は本当立派だね～、いつも座談会で研究発表をやってくれるし。（私の方を見て）やっちゃん、嫉妬だけは、本当に気をつけないといかんよ～、男の嫉妬はまっくろけって言うんだよ。おなかのなかまで真っ黒けだって！。本当、信心狂っちゃうから。日顯みたいになっちゃうでね～」

などと言われた。私が極楽寺氏に対し怨執をしている、というでたらめな内容を吹き込まれ、そのまま信じていたのである。

・岩志水誠子さん（婦人部、岩志水部長の奥さん、現第二地区白ゆり長？）の、態度の急変

この方も、ずっと何でも話せる方だった。話好きな方で、娘さんが私によくついていた事も有り、決して仲は悪くなかった。ところがある事をきっかけに、それ以降、絶対に挨拶も返さない、徹底的に無視をする、私と合うと顔をしかめる、という様に態度が急変してしまった。（ごく最近、ようやく挨拶してもらえようになり話もできるようになったが、こんな状態が10年も続いていたのである。よほどとんでもない事を吹き込まれたのだと思う）

そのきっかけというのは、こうである。

当時、私は、学会組織だけでなく職場でもひどくいじめられており、職場の人へ仏法対話をしたばかりに学会嫌いの先輩から徹底的にマークされ（この事を相談できる人は、学会組織にはいなかった。仕事が大変、という話をすると、またやしのみ君がうそを言っている、という話になってしまうので）男子部組織でもたいへんな目に合い、折伏した小柴君は退転状態にさせられ、そのような中で私はとても尋常な精神状態ではいられなかった。たびたび不眠が続き、精神的に、ぎりぎりの状態で、それでも何とか仕事を続け、組織からも離れずにいた。この時は、相談できる相手も励ましてくれる同士も無く、支えは池田先生の指導と、学会歌のテープ、

それから「負けたら俺が悪者になるだけだ。正しかったら無実は自分で証明するだけだ」という意地しかなかった。職場では学会員という事で差別され、人の3倍以上(!)もの外観検査をさせられた事もある。(普通の人顕微鏡での検査は一日3000から4000ヶくらい。私は良品ベースで9000ヶくらいやり続けた事がある!差別している本人からは「やしのみは雑草みたいなやつだ」と言われ、又、極度の眼精疲労から嘔吐を繰り返したので「ゲロ吐きやしのみ」などとアダ名を付けられたりした。朝から夜中まで顕微鏡による外観検査を続けるような事は普通やらないだろう。)

そんな状態で、ある水曜日、岩志水部長宅での部の活動者会に、何とか仕事のきりをつけて(水曜日は会社で、ノー残業デーと決められていたので、いつもよりは早く帰宅できた。)参加した。頭痛と吐き気がひどかったのだが、我慢して参加した。とにかく体調が悪くても参加しなければ、また私の悪口で会合が盛り上がってしまうかもしれなかった。

極楽寺氏が、私と、部員の古木さんのところへ、車で迎えに来た。

この時の参加者は、極楽寺氏、古木さん、私、それから男子部の会合であるが、婦人部の岩志水誠子さんがいた。岩志水部長は欠席していた。

私はもう、疲労と吐き気で、勤行も猫背で、経本も下がった位置で持っていた。それを見た岩志水誠子さんが、「勤行は背筋を伸ばして、経本ももっと胸の前に持ってきて、きちんと見ながら勤行するんだよ」と、言ってくれた。

会合終了後、その、帰りの車の中での事である。極楽寺氏が、がたがたとがなりたて始めた。

「仕事が楽しくせに、唱題に力が無い！」

などと言い出すのである。仕事が大変だという説明をそれまでも再三行ない、度々夜中まで仕事をしている事を説明してきたのに、全部、**仕事が楽しくせに合唱団の練習に出たいからうそを言っている**、という話に捻じ曲げられ続けていた私は、この時も本当に腹が立った。

「早く帰らなければいけない、ペースを上げて仕事をしてきたんです！」とだけ言いかえしたのだが、しばらく極楽寺氏は黙り込んだ後、わけのわからない話を、気持ちの悪い声で、ねちねちと始めた。

極「(青年創価)合唱団では、みんなカラオケとか、一緒に行くの～・・・？」

や「カラオケは僕は一切やらないので、行った事がないです。でも団員で、一緒に行く人とかもいるんでしょうけど、よく知りません」

極「世俗だなあ・・・まあ、・・・いいんだけどね・・・」

とにかく様子がとても変で、声も、地獄に引きずり込むようなおかしい、本当に気持ちの悪い声であった。この時、私は、この後極楽寺氏が岩志水誠子さんに何か吹き込む気だろうな、という事は直感でわかった。

案の上、その次の週に岩志水宅で行われた少年少女部員会で、とんでもない事が起こってしまった。

いつもどおり、こちらが「おはようございます!宜しくお願いします」と言っても、岩志水誠子さんは顔をしかめて返事もせず、そそくさと奥に引込んでしまった。ある程度予想してい

た事であったし、もうこの頃は私の神経も麻痺していて、もう気にしなかった。

その少年少女部員会の、勤行の時のことである。

岩志水誠子さんが、勤行の時に、突然怒鳴り込んできた。金切り声で、「あんたたち！勤行に力が無いのよ！一体勤行を何だと思ってるの！？」と、子供達に向かってひどい剣幕でわめきちらした。しかも岩志水部長もそこにいたのに全く奥さんを止めようとしなばかりか、「みんな、勤行はもっと声を出さないとダメだよ」と言い、私に代わって導師を務め、勤行をした。

この状況があまりに酷かった為、当時少女部の担当者（北条望さん）と、婦人部のやしのみ秋絵さん（私の義理の姉）が会合に同席していたのだが、会合後にそれぞれ私あてに電話があった。特に婦人部の秋絵さんなどは、深刻な声で、「私は部員会があのような事をする場所だとは思っていない。岩志水さん家は勤行を何が何でも子供に徹底させる方針かもしれないけど、うちは勤行を子供に無理やりやらせるつもりはないし、これからもこういうことが続くようだったら、もううちの子供は部員会に出したくない」という電話をくれた。

私は一切、岩志水さんの悪口など言っていないし、ただ極楽寺氏が言う話があまりにわけの分からない筋違いのもので言い返したまでなのだが、それで岩志水さんがこの様にキレてしまい、子供達に当り散らしてしまった！一体どういうでたらめを極楽寺氏は吹き込んだのか！？

・岩志水部長は私に対し、酷い態度をとるようになってしまった。

例えば折伏戦で報告を吸い上げる時、他の地区リーダーの下種対話数はゼロだが私だけは20とか30くらいという事が度々有った。

当時は週刊誌上に学会批判が掲載され続け、それについてのいじわるな質問を職場でされ続け、反論していたので私の対話数は多かった。

しかし岩志水部長は、対話数ゼロの地区リーダーや副部長には全く厳しい指導を行わなかったが、私の対話数についてはだらだらといやみを言い続けた。

岩志水部長は、「うちの職場にもおかしい学会員がいて仏法対話や新聞啓蒙を仕事中にやっている。もしこういう事したら法を下げってしまう。」などと遠まわしいイヤミを言い、それに対し私が「私から言い出しているんじゃなくて周囲から意地悪をされていて言い返しているんです！」のだと説明しても毎回無視され続けた。

私は後年、たくさんの組織に派遣されいろいろな学会組織を見てきたが、地区リーダーの活動報告に対し部長がこのような指導を実施している部はひとつも見たことが無い！なぜ仏法対話をしたら部長からイヤミを言われ状況説明も無視されなければならなかったのか、全く理解出来ない。

岩志水部長（当時）のやっていた事は、

- ・ 合唱団の練習日程も確認しなくせに極楽寺氏の誹謗中傷を容認。
- ・ 仏法対話等の私の活動に遠回しの言いがかりをつけ続け、職場の状況説明は無視。
- ・ 合唱団の発声担当者と県男子部長（青年部長？）の「合唱団員のいる会合は禁煙

に」という指導に反発し「わざとタバコをすってやる」などと長島副部長らと共に酷い喫煙をし続け、反逆の狂った一念で私を発病させた。

- ・ 極楽寺氏にそそのかされ小柴君を徹底していじめ続け、会合不参加になっても一切謝罪しない。
- ・ 極楽寺氏が垂れ流し続けた私に対するデマの誹謗中傷について事実の確認も一切行わず私の説明も完全に拒否し、事実無根の作り話の流布を部長として容認し続けた。

といったところである。

部長と副部長の狂った一念は黒岩の男子部組織を破壊してしまったのだが、2度とこのような事が絶対に起こらないように当時の状況を4者で一度良く見直してみたらいかがだろうか。不正統監も止められないような組織では、事故の再発防止はとても不可能である。

ところでなぜか、宗門問題が始まったころ、岩志水部長が部の活動者会で

「宗門問題は関西が動いていないからおかしい」

「(宗門側の活動家の)根元明の題目の声は本当に素晴らしい、学会員も見

習わなければいけない」

などと何度か繰り返し言い、又、宗門問題直前には、私に対し

「池田先生は最近、同中（衛星中継の事）で宗門の批判を繰り返してい

る。池田先生の信心が狂っていないか、気をつけないといけない。」

などと言った事もあるが、岩志水氏自身が（略）当時狂っていた事を良く反省し、（略）深く反省してはいかがだろうか。極楽寺氏の組織破壊に加担し、（略）、心理学に狂ってしまう、そのような自身の生命を御自分で切っていくべきではないか。会員を見下したような行動や態度、民衆の側に立って闘っている池田先生への軽蔑の念、よくよく自身の（略）を自分で切っていくべきである。

蛇足であるが岩志水氏の母も昔、会員宅の御本尊を無理矢理持ち出し勝手に寺へ返却したという話を聞いている（井島さんというお宅の娘の嫁ぎ先から戻されていた御本尊）し、選挙期間中のデマ（「投票会場には候補名が書いてないからF先にしっかり候補名を覚えさせるように」と座談会で指導し選挙終了後には「あのくらい言わないとダメだ」などと言う）や（略）など、会員を見下した傲慢な生命の持ち主であるように私には見受けられる。

この母親は、顔の相というものについても「カラスが黒いのも過去世の宿業と御書に書いてある。相や皮膚の色も全部宿業が出ているんだ」などと言い、私へは「生

命が狂っている人間は顔を見れば私は分かる。どこかゆがんでいて左右で違っていたり、私は分かる」などとも繰り返していたが、肌の色や人相で差別して良いのか？どこまで傲慢なのか？私も〇〇症で〇骨が歪んでいたのだが、その事を言っていたのか？極楽寺氏を座談会で絶賛していた事も伝え聞いているが、狂った極楽寺氏を見抜けないのは極楽寺氏の眷属であって似た生命の境涯なのか？庶民を見下し、傲慢な一念で狂った指導を繰り返していたように私には思える。

・少年少女合唱団団長の依頼

そんな状況の中、当時のゾーン少年部長と少女部長から、少年少女合唱団団長を引き受けて欲しい、という話が私の所へ来た。当時、私が合唱団団長など引き受ければとんでもない事になるのは火を見るより明らかであったし、人事は断れるものと思っていた私は、即座に断わり、それでもと言われたので、岩志水部長がOKなら、という条件付で回答した。(私は、これだけ組織が青年創価合唱団の悪口で盛り上がっているのだから、当然部長が断わるはず、と思ったので)

しかし私の予想に反し、岩志水部長は断わらなかったらしい(当時の漢土ゾーン少年部長から、「岩志水部長なら、「どんどん使ってあげて」って言ってたよ、別に反対はしてなかったなあ」と聞いた)ので、私は、少年少女合唱団団長を引き受ける事にした。

私は、絶対これから今まで以上に酷い目に合うに違いない、と思いながら、とにかくやるからには全力で、と決意をした。

そして、これまで以上に地区を回り、とにかく結集の数字を上げる事で極楽寺氏の嫌がらせを跳ね返そう、と考えていた。

ちなみにこの時、私は漢土少年部長に何回か「私が青年創価に入ってるのをすごく反対している人がいるので、僕が少年少女の団長になれば、その人からものすごい嫌がらせが始まると思います」と、こちらは真剣に言ったつもりなのだが、漢土少年部長はあまり気にしていないふうだった。

しかし、この後極楽寺氏が部長になった事で、ますます嫌がらせは激しくなり

私の地区が成果を上げた事(地区で内部4割結集プラス外部3名を達成した)も嘘の話ですりかえられ、

選挙戦や地区大会の度にウソの報告を何度も上に上げられ、

私が育ててきた人材は退転状態にされ、再起不能な所まで組織が潰され、

私にいろいろな冤罪を被せられ、

最終的には「少年少女合唱団の活動の為、やしのみ君が組織で度々問題を起こした」などとという話をでっちあげられ

私は合唱団団長を突然クビになった。

実際に活動もろくにしないで、会合もろくに参加しなかったのは極楽寺氏であったというのに。

部長時代（うその報告を上垂れ流し、人材を潰し、行動がエスカレーターして行く。そして極楽寺氏自身は組織から離れ始める）

・部長就任早々、でたらめな情報を組織に垂れ流した上で、団長を辞めるよう私に命令する。

極楽寺氏は部長に就任してすぐ、男子部と壮年部の打ち合わせ（毎週月曜日、当時の多喜支部長宅で開催していた）の席で、さも心配そうに「君は、青年創価合唱団に少年少女合唱団に創価班に地区リーダーに守る会、いろんな役を受けすぎている。やっちゃんは信心が純粹すぎて言われた事を何でも受けてしまうから、僕は心配でたまらない。純粹なのはいいけれど、君の為にも、どれかやめよう。ねっ。分かったね？」などと言い出した。

私は、守る会はとっくに岩志水さんか極楽寺氏からやめさせられていたつもりだったので、すぐ「守る会の事はもう1年以上前からやめる話がそちらから出ていて、じゃあそれを極楽寺さんか岩志水さんが話を付けに行く、という話だったではないですか？一体どうなっているんですか、まだ私は守る会に所属しているんですか！？今まで何をしていたんですか？」と言い返した所、極楽寺氏は「まだ話はしていないから、今度話をしに行く」などと、尊大な態度で言い訳を言っていた。

（その後何を極楽寺氏が吹き込んだのか知らないが、守る会の責任者の方はそれ以来私に挨拶も返してくれないし、やめてしばらくは恐ろしい顔で私を睨み付けてきた。）

（結局その時にまだ私が守る会に所属している事は、極楽寺氏自身の責任だったではないか！守る会の話はこの時の1年以上も前の部の活動者会で、やしのみ君はすぐに守る会をやめろ！という話が一方的に岩志水部長から出て（部もそのような話で盛り上がっていたような雰囲気だったが）、私も了解して、その時の岩志水部長と極楽寺氏の話では、とにかくやめる話は部長と副部長からするから私は話をしなくていい、という事になっていた上、その後日、何度か私は「守る会をやめる話はどうになりましたか、もう上には話は通ったんでしょうか？」と催促をかけたのに、それを一年以上もほったらかしで話もせず、それでこのような支部の協議の場で私が役を受け過ぎで悪いなどと言うような話をするとは何を考えているのか（壮年部や婦人部の何人かには前もってこのようなでたらめな筋違いの話を触れ回っていた。3名確認した。後で別記する）。ちなみにその後極楽寺氏が守る会の責任者にどんなでたらめを吹き込んだのかは知らないが、それまで普通に挨拶も会話も出来た責任者の方が、突然絶対挨拶も返してくれなくなり、私を平和会館で見つける度に、にらみつけてくるようになってしまった。一体極楽寺氏はどんなとんでもない話を吹き込んだのだろうか？私が一体、何を悪い事をしたというのか？極楽寺氏が盛り上げて、辞める話に一方的にしておいて、その話をいつまでも放っておいて、挙句の果てに私の悪口を吹き込むとは何を考えているのか？？私が辞める事になったいきさつを正直に責任者に報告すれば良い物を、わざわざ私に責任転嫁するとは）

私が「じゃあ創価班か、地区リーダーをやめますか？」と聞くと、「何を馬鹿な事を言っている

んだ・・・」などと、嫌な顔をして言う。結局、理屈をこねながらも、少年少女合唱団団長と青年創価合唱団をやめろ、という、たったそれだけの話なのである。

(何が私の事が心配なものか！連絡も報告もさんざん捻じ曲げておいてただ私の活動を徹底的に妨害しているだけのくせに、なにを4者のまえでは正義ヅラなどしていたのか！)

私は「青年創価合唱団は役職ではないでしょう？仕事も忙しい中、ライン優先でやっていて練習に参加する時も部員さん周りをしてから遅刻して行っているのに何で何回も何回も同じ説明をしているのに、何であなたはいつも聞いていないんですか！？それに少年少女合唱団団長の事は私が勝手にやめられるわけではないので幹部と話をして下さい。私はやりたくて少年少女合唱団の団長を引き受けたわけではないし、きつく断ったのだがどうしてもと言う事で岩志水さんも了解したのだから引き受けた事です。とにかく人事の事は上に言って下さい。人事で決まればすぐ団長はやめますから」(この後極楽寺氏は、しつこく陰険なやり方で上にうその情報をたれ流し、幹部に対して団長をやめさせる話をする様になる→後記)

とにかくくだらだらとありもしない話などをねちねちと続けられ、何とか耐えて家に戻ってきた。それで、**まず当時家に同居していた私の兄(現黒岩支部支部長)に相談したのだが、とっくにうちの兄は極楽寺氏から洗脳されていて話にならなかった。**

最初は「地区の部員数を言ってみろ！一人一人の状況は把握しているのか！？」などと程度の低い簡単に答えられる質問であったので私は即答し、「だれが何の仕事をしていてどのくらいの時間に帰ってくるかなど、そんな事は全部把握してる。そんな次元の低い話をしているのではない」と言い返し、それまでの極楽寺氏のうそやでたらめの話や行動を訴え始めたところ、兄は突然キレてしまい、

「残業を一切やめて毎日定時で帰宅しそれから毎日部員を回れ、まだ若くて職場でもどうせ責任が軽いのだから明日から定時で帰れるはずだ。それができないうちは自分を守っているのだから師弟不二ではない。ぼくらみたいな年齢になれば責任があるから残業は断われないが君はできるはずなのだから一切残業してくるのは明日から止めなさい。それから、明日から夕飯を食べるのをやめろ、病気になれ、今病気ならもっとひどい病気になって倒れなければ師弟不二ではない、ただの師弟だ。自分をすてろ、仕事をすてろ、自分を守るな、残業は一切やめろ、自分をまもっているうちは不二にはなれないからひどい病気でたおれろ、信心がおかしい人のおかげで成長できるのだ。未来部の活動は、やりたくてやってるのだからいくらやっても絶対成長できない(←何でこんなわけのわからないことを大声でわめかれたのだろうか??)。創価班の活動は嫌な事を押し付けられるから、自分の意思ではない活動をさせられるから成長できるんだ。未来部の活動は、自分の意思で活動しているのだから、いくらやっても絶対成長できない。福運が付くだろうが絶対成長しない(←何の事だろう??)。とにかく毎日定時で帰れ。」

と大声でわめく事の繰り返しで、極楽寺氏がうそばかり言って回っている事、このままでは組織がだめになってしまう事、を訴えてようとしても、とりつく島もない。

私も大声でがなりたて続けて言い返しつつけたのだが、兄も大声でがなりたてるのをやめず、一切話にはならなかった。もう私は、兄に相談する事はあきらめた。兄は最後にぼつりと一言、「池田先生の指導を、相手にあてはめては駄目だよ」などという、何だか訳のわからない話を、笑顔で話した。

しかも兄は、私が相談した事をこの後極楽寺氏にばらしたらしく、2日くらいして極楽寺氏が私を家庭訪問に連れ出し、深刻な顔で「やっちゃんあのさあ、食事は取ってもいいからね・・・」などと言い出したので私はびっくりした。

ちなみに何週間かたって、兄と平和で会ったときに、兄から「その後極楽寺君の様子はどう～？」と、非常にこやかに聞かれたのだが、もう絶対に現状を兄に言う事はやめた。せつかく聞かれたのだが、特に異常ない、という返事だけをしておいた（本当は極楽寺氏の状況が非常に悪化している時だったのだが、もう絶対何があろうと2度と相談などしない、と決めていたので聞かれても報告しないようにした）

ところで極楽寺氏は、この話をぶち上げる前に、とくに支部の4者に、でたらめの話を吹き込んでまわってあった。婦人部のやしのみ秋絵さんや長島美子さん、それから壮年部の長島重雄さんに、この件を私が相談をしたところ、もうとくに皆、全員が極楽寺氏から話を吹き込まれていて、こちらの話は全く通じなかった。

私が相談に行くと、「極楽寺君は、やっちゃんがいろんな役職を受けすぎるから、それで心配してくれているんだよ。そういう話を極楽寺君が言っていたよ」などと皆全員が同じ事を言っていた。

私が気付かなかった所で、すっかり先回りされていて全く話にならなかった。

本当に心配している人間が、でたらめなうその悪口で人を煽動して回るような事をするはずがないのに。

それにしてもよくもよくも広範囲に、私の事を誹謗中傷してまわってくれたものである。

・漢土ゾーン少年部長（当時）が洗脳されてしまう

極楽寺氏から合唱団団長を辞めるように言われた件はすぐに漢土さんに電話で相談した。

それを聞いた漢土少年部長は、「それはまずいな」と言ってくれ、その後すぐに極楽寺氏の所に話を聞きに行き、すっかりいいくるめられて洗脳されてしまった。

その後は、私が極楽寺氏の事を相談しても「そんな様子じゃなかった」と言い、それからは極楽寺氏に関する相談は一切聞いてもらえなくなり、**私が組織で問題を起こし極楽寺氏がそれを指導していることになってしまった。**

私が何かのうちに漢土さんへ相談しても、「ああ、びしっと指導された？」などと言われるばかりで、その後極楽寺氏がでたらめの報告を上になげ続け、私に対し誹謗中傷を繰り返しても、漢土さんは一切、私の相談を受け付けてくれなくなってしまった。

私も団長として極楽寺氏の嫌がらせで精神的におかしくなってしまう間違いなどがどんどん酷くなってしまったので、さらに漢土さん（と、次の張元少年部長）の信頼を失ってしまった。

井上さん（その後区少年部長となり、そこで私の事を悪人であるという情報を信じてしまい、後にタバコ等でひどい嫌がらせを行い私の未来部の活動も滅茶苦茶に妨害した。現壮年部、S支部）から聞いた話であるが、漢土少年部長が当時、「合唱団の事で、組織で問題を起こして、やしのみ君はめっちゃくちゃだ」と言っていた、との事である。それから次の少年部長の張元さんから私の悪口をかなり吹き込まれたようである。

漢土少年部長（と、恐らく張元少年部長も）は極楽寺氏を信用してしまった為、極楽寺氏のウソや妨害の事で私が相談しても、全く理解してもらえなくなった。私が問題を起こし、それに対して極楽寺氏が厳しく指導しているものと、信じ込んでしまったのである。

・「**新世紀と人間展**」（会場・U公園施設内）の件（赤川一郎班長、大貝さんに対する嫌がらせ）

私にとって、本当に地獄の様な出来事であった。地区で4割結集を達成し、もう一人で5割達成、それ以外にも外部2名の連れ出し、という結集をやりとげたのだが、私は「合唱団に熱心なあまり問題を起こした」という事にされ、4者からはバカにされ、第四地区の人材はいじめに会い、あげくの果てには事実無根の報告書まで提出されてしまった。しかしもう、どんなひどい目にあっても、絶対にだれにも相談できなかった。極楽寺氏の件については、学会組織の誰人たりといえども、信用できなかった。一人で抱える以外、手立てはなかった。今でも、突然私の目の前に、当時の光景が浮かんでくるのが度々有る。

・U公園施設内で、「**新世紀と人間展**」が開催されることが決定した。

私は、青年創価合唱団で、学会の文化活動の重要性を繰り返し学んでいて、この展示は絶対に部員さんにとって参加しやすい、それから学会の事を理解してもらえる大きなきっかけになるに違いない、と考え、地区リーダーとして、かつてない大結集を決意した。1ヶ月以上前から部員さんに連絡し、確約を取っていった。とにかく団長をやめる様命令された後だったので、極楽寺氏のでたらめな言動を、結集の成果で絶対に打ち砕こう、自分の無実を自分で証明しよう、そして、黒岩第四地区の男子部を盛り上げ、池田先生のもとに集わせよう、と決意していた。

題目をあげては部員さんを回った。普段と全く違う感触を得ていた。学会の、特に平和運動について部員さんに訴えて回り、外部会場での会合である事や、家族で参加する部員さんもいる事から、いつもと全く違う確約がとれていった。

このころ極楽寺氏からは、人間展の結集の話は全く出なかった。私も、特に、自分から積極的に報告する事もしなかった。極楽寺氏は何かと、私が自分の活動した報告をすると、嫌な顔をして聞いてくれないので、このころは特に報告等、しなかった。部の活動者会以外では極楽寺氏と顔を合わせる機会もなかった。

ところが、人間展が始まる2週間くらい前から、とんでもない事が起こり始める。

極楽寺氏から突然家に電話があり、「今から一緒に家庭訪問に行こう」と言ってきた。

そして極楽寺氏の車で訪問に出かけたのだが、とにかく車の中で、

「何で君は今まで、人間展の連絡を全然してないんだ!？」

などという噴飯物の言いがかりのみ車中で繰り返され、こちらがいくら

「もうとっくに全員連絡は済んでいます!」

と何度言ってもあえて無視された。

しかもその日から極楽寺氏は、私が地区リーダーであった黒岩第四地区の部員さん2名に対して嫌がらせをはじめた。

岩志水さんの激励でやっと班長になり、私が通い詰めてなんとかいろいろ腹をわって話ができるようになっていた赤川一郎さん（男子部班長）は、とっくに確約がとれていて、行く日も決めてくれてあり（最終日の日曜日）、

「その日は野球の練習が終わってから見に行くので自分で一人で行くから、」

という事だった。

極楽寺氏が赤川宅を訪問した時も、赤川君はこの事を極楽寺氏に言った。

それに対し、極楽寺氏が

「時間を約束してその時間に乗り合わせで行くようにしなければだめだ」

という話をわざわざ出した。

とても嫌な言い方で、しかも赤川君が一人で行く理由を再度説明すると、すっかり極楽寺氏はむきになり、時間を決めないと良くない、一人でいくのはダメです、はっきり決められないのは社会でも通用しない、の繰り返しで、赤川君の話に耳を貸さない。

この事だけでもケンカ分かれに終わったと言うのに、その上とんでもない失礼な事を極楽寺氏がしでかした。

まず、話が終わり、赤川君の家を出て極楽寺氏の車に乗ったのだが、**駐車場（赤川君の部屋の窓のすぐそばの、砂利のところ）で極楽寺氏がエンジンをギヤーギヤーふかし、タイヤをギヤーギヤー鳴らし、タイヤを滑らせながらUターンした（砂利だったのでとんでもない音がした）**そして「今のがドリフトっていうのか…」などと訳のわからない事を言い、それから赤川君の悪口を車の中でまくしたてた。

この、帰りがけに赤川君の家の近くでとんでもない運転をするところは、私が見ただけでも3回あった。実際にはもっと何度もやったのであろうと思う。3回共全く同じやり方をしたので、恐らくその場の感情でやったのではなく、計画してやっていたのだろう。

その日以来、しつこく赤川君の家に行っては、「とにかく行く時間を決めろ、乗り合わせで行くように決めろ」という、くだらない話のために通いつめた。赤川君も最初は反論していたが、そのうち何も言い返さなくなってしまった。それを極楽寺氏が「彼はなにを考えているのかわからない。あんなやつはダメだ!はっきりしろはっきり!!」などと帰りの車のなかでキレてののしるようになった。

そんなある日、ちょうど極楽寺氏が赤川宅でぐずぐず説教しているところへ**王地区部長が来て**、いきなり信じられないことを赤川君に対して言い出した。

「赤川君、はっきり言えばいいだで、なんでもそう!物事ははっきり言わないと分らないで、

なんでもはっきり言わんとだめだで…」

などと、**まるで赤川君が悪い様な言い方で指導を始めた。**

私は本当にびっくりした。赤川君はもう、地区部長から何をいわれてもだまったままであった。赤川君がはっきり断わっている事を、しつこく通い詰めていじめているのは極楽寺氏の方だというのに…

こんな事が当日まで続き、後から聞いた話では極楽寺氏は単独でも赤川宅を訪問し嫌がらせしたらしく、赤川君の母親は極楽寺氏に対し、「あんたの顔はおかしいよ！あんた人間の顔じゃ無い！本当にあんた教師かね！？」と言ったらしい。（後日、極楽寺氏がこの母親の事を悪く言い始める。後で触れる）私から見ても、赤川君の家を訪ねる時の極楽寺氏の様子は、尋常ではなかったが（帰る時も）。

それからもう1件、もともと退転状態の大津さんという男子部のところへもしつこく通い詰めた。

ここも、親も厳しければ本人も厳しく、会うのも大変だが会えても大変、というところだったのを、何とかこの頃には私が本人を何度も訪問し、趣味の話や車の話などを聞き出し、いちおう普通に話ができるようになった上で、この時には、本人から「人間展はすばらしいものだろうから、気が向いたら行きますよ」という、それまででは考えられなかった望外の返事をもらっていたのである。

しかし極楽寺氏は、例の「そんなことではなくて行く日も時間も約束して、必ず一緒に乗り合わせで行かなければ駄目です」などというとんでもない話で通い詰めてしまったのである。

大津さんは訪問を重ねるたびに怒ってしまい、しまいには「私は自分が学会員かどうかわかりません！それにあんた（極楽寺氏）は同級生かもしれないが、あんたは他人だし、いい展示かどうか知らないがあんたに時間の事までとやかくいわれる筋合いは無い！ただ、いい展示だろうから行きたくなったら行くと言うだけの話だ！」と大津さんが激しく言っているのに対し、極楽寺氏が負けずに激しく言い返してしまい、**話が決裂しているのに極楽寺氏が次回また同じ話をしに訪問してがたがた言う**、というありさまになってしまった。

私が時間をかけて積み重ねてきたことは、全て無駄になってしまった。大津さんは、結局参加しなかったし、その後以前の様に打ち解けて話ができる事は2度と無かった。

私は、極楽寺氏とはもう一切、一緒に活動したくなかった。どんどん私の体調が悪くなり、恐ろしいまでの暴飲暴食と、嘔吐と不眠を重ねるようになり、仕事は手につかなかった。

人間展が始まる2日前など、私は発熱もしていたし嘔吐と頭痛がひどかったがそれでも極楽寺氏から電話が有り、私は断った（活動ではなく嫌がらせに行くのが分かっていたので）のだが、1件か2件なら回れますという事で引きうけたのに他の地区まで引きずり回され、しかもまた赤川君と大津さん宅で暴言に付き合わされるはめになった。

とにかく全部連絡が済んでいて確約もとれていたのに、極楽寺氏と行った先ではどこも人間展の日程は知っていて、極楽寺氏に対して部員さんが「何日に行きますよ」という返事を何人か即座にしていて、**極楽寺氏は私がすでに第四地区は連絡・結集が出来ていたことはす**

ぐ理解したくせに、あえて事実を捻じ曲げた上で、部員宅にいやがらせに通った。

車中でも「君は何でちっとも連絡をしないんだ！なんで部員をまわらないんだ！」というでたらめの作り話の言い掛かりと、それから赤川君や大津さんや、小柴君の悪口を、それはそれはしつこく繰り返されるのであった。私が回っていないなどという捏造ねたと、私が育ててきた部員の悪口を聞かされながら、連日、部員を回っていたのである。

完全に狂っているのは極楽寺氏なのに、相談できる人間は、一人もいなかった。地区部長に言っても、首を横に振るばかり、(当時壮年部に移行した)長島B長に言っても、無視されるばかりであった。獅子身中の虫によって、第四地区の人材がつぶされていたというのに！

赤川君を会合に参加させた当日の事は、絶対に忘れることは出来ない。

赤川君は最後まで乗り合わせの件を承知してくれなかったのだが、私は極楽寺氏から、私が迎えに行くように言われ、約束の当日、私は何度も赤川君の家に(野球から帰ってくるまで)通い、帰ってきたばかりの赤川君をつかまえて誘い、私の車に乗る様をお願いし、会場へ連れていった。

赤川君は、車の中でも私が何か話し掛けても、ひどく慥然として、ほんの少し返事をくれるだけであった。

会場につくと、私と赤川君を見つけた長島B長や赤影さん、それから確か加藤さんが駆け寄ってきて大はしゃぎを始めた。長島B長などは、「もう、来ないかと思ったよ～あ～心配した～！おめでとう」などと言いながら、赤川君に握手をしたりした。

来ないかと思った、などと言われたので、多分赤川君は死ぬほど立腹したと思う(1ヶ月も前に、とっくに確約して、必ず来ると断言し続けていたのだから)。

私の方にも、長島B長が「本当、もう来ないかと思って、ずっと心配してただよ！」などとはしゃいでいた。

よっぽど赤川君と私の事で、変な風に盛り上がっていたのであろう。

その時、バンザイなんかもされたような記憶がある。

展示を見ている間も、帰りの車の中でも、赤川君はまともに話をしてくれなかった。

それ以来、何年もの間、彼はまともに話をしてくれなくなった。

少しは話ができるが、創価学会のことをすっかり悪く思っていて、宗門の新聞は熟読しているし、赤川君と同じ会社で学会の悪口を吹き込む人がいるのを、それを信じて母親に話をするらしい。

特に私が訪問すると、不機嫌な態度をとる事が多かった。

そして後日、幹部を連れて行くととても御機嫌な態度を取り、幹部がいないと不機嫌な態度をとる、といった要領まで、赤川君は身に付けてしまった。

(このあたりは現場の活動家の悪口を言いウソを婦人部に吹き込んだりして活動不参加の言い訳をするようになってしまった小柴君と同様である。いじめられて、学会の組織というのは要領の良い人がでかい顔をするという黒岩の特徴を身に付けてしまうのである)

(赤川君は今では〇支部に越していったので、ごく最近の近況は分からないが)

人間展当日の事に戻る。部員のHさん連れ出して参加した時の事である。

展示を見終わって出口でお菓子などを少しもらい、帰宅しようとした時、**第二地区地区部長（当時）のやしのみ健さん**が声をかけてきた。（私のいとこ）

Hさんと健さんが会うのは初めてだったので簡単に紹介などして挨拶したあと、健さんがHさんに対して、こんな事を言い出した。

「とにかく極楽寺君についてけば絶対間違いないから！やしのみ君は全然駄目だけど、極楽寺君はしっかりしてるで、極楽寺君についていけば間違いないで。やっちゃんはネジが完全に外れてるで、もう全然ダメだで」

完全に、4者の間で、私は悪者であった。獅子身中の虫の極楽寺氏が、正義とされてしまっていた。この時本当に、その事を死ぬほど思い知らされた。

とにかくこの時、私は地区リーダーとして、内部のみで4割達成、もう一人で5割結集、というところまで結集の結果を出した。その上外部の人を3名、参加させる事ができた。（小林達哉さん、Tさん、Mさん）しかし、重ねてきた対話をぶちこわされ、しかも私は「結集にも回らない、問題を起こした地区リーダー」という事になってしまい、その上後日、そのような

虚偽の報告書が、文書で提出されてしまった。

報告書の内容は、やしのみ君は合唱団の事ばかり必死にやっていてラインの活動をしな、問題をおこしているのだから団長をやめさせるように、という内容である。（私は確かに、人事の事は幹部に言ってくれ、とは言ったのだが、うその報告をあげてくれなど一言も言っていない！！）

当時合唱団の幹事だったHM君の母親が、平和会館の事務所で、守る会の時その文書を見つけた。しかも親子でその報告を信じてしまった。私は合唱団の打ち合わせの時になると、HM君から「お前、団長やめるんだって？うちの母さんが言ってたぞ！！何か、全然活動しないもんで、団長をやめさせろって、そういうこと書いた紙が事務所にあったって。いつやめるだヤシ！？」などと言われるようになった。

そのとなりで合唱団の副幹事だった王夏美さん（第四地区地区部長の娘さん）が、

「いつもうちのお父さんも、『やしのみは、あいつは本当にだめだなあ、いつもどっかハズレてる、ネジが完全に外れてる』って、いつも言ってるよ～、だめだなあ～」

などと言い出すのである。合唱団の為に誹謗中傷されている私の気持ちが、本当にずたずたにされるような気がした。こんな事が、合唱団の打ち合わせ時にあった。

本当に、地獄を見た。こんなにも、でたらめの捏造ネタが学会の組織に流布されてしまうとは、全く想像もつかなかった。しかも流布している本人は、獅子身中の虫そのものだったのに！誰かが、現場を良く見てくれれば、すぐにでも分かるような嘘であったのに…

その後も合唱団に対する嫌がらせが続き、それと後日、第四地区の人材があと2人つぶされることになったのだが、それについては後記する。

（うその報告書が提出された当時のゾーン男子部長は、確か、育三さん、それか織田（兄）さ

んか、どちらかの境目くらいの時期であった。)

人間展が終わってからも、極楽寺氏の嫌がらせは続いた。このころは極楽寺氏はS中学に勤務していて、仕事はいつも早く終わったので、時々私を部員さん回りに連れていっては車の中で私を、ありもしない作り話や服装の事で罵倒し続け、小柴君の悪口を言い、それから赤川君のところにも通い、私が赤川君の母親と少しでも会話しようものなら、私の背中を後ろから何度も殴った(暴力行為)上、帰りの車の中で「あんな信心の狂った親と言葉を交わすなんて、一体何を考えているんだ！君のそのおかしい一念が、赤川君をダメにしているんだ！」などと、人材を潰した上に私に責任転嫁する様な言い方で、私を罵倒し続けた。

私の自宅への不法侵入と、地区リーダーたちのふざけた態度

(今回阿修羅掲示板への掲載の為追記した)

確か、部の活動者会(土曜?)で私と極楽寺部長の2名きりだった(出席活動家はほとんどいなかったから、こんな人数はしょっちゅうだった)時、極楽寺部長が「明日、やしのみ君の家に訪問したい」と突然言い出した。

しかし私は遊びに行く約束があったので「家が留守になりますから。両親も出かけるので」と断った。

断ったところ、極楽寺部長が暗い声で「ええ？」などと変な言葉を言い訳のわからない態度を取るのので、しっかりと「明日は留守ですから来ないで下さいね。分かりましたか？分かったんですか??」と、念を押しておいた。

しかし次の日、うちが留守中に勝手に上がりこみ、それを次の部の活動者会で「返事が無いから上がらせてもらったけど、あの部屋はいったい何だ?!」と(落ち着いた低い声で)言い始めた。

明らかに住居不法侵入である！なので私は3度も「住居不法侵入ですね。何で家へ上がったのですか。留守だと分かかって何でやったんですか?!」ときつく問い詰めた。

その時、会合に出席していた2名(北条、大島両地区リーダー)が面白がって「ああ～どんな部屋か、俺も見て見たい～」などとふざけて話を盛り上げたのである。

犯罪者の話を周囲の学会員が面白がってふざける、学会の実態とはこんなものである。

最初に書いた外部のお宅への嫌がらせの時もそうだが、犯罪が起きても学会員同士の批判は無い。

ちなみに書いておいたほうが良いと思うのだが、この頃の会合参加者は私と極楽寺部長の2人だけとか、多いときでも私、極楽寺、北条、大島のせいぜい4名である。

すなわち、一部活動家が狂っていたというわけではない。この状況、「そこにいた活動家はほぼ100%、全員狂っていた」のだ。

ところで何年か後、私は学会員（伊能君）から個人的に酷いストーカー被害にあった。

又、彼は男子部会合で、北条君（部長になっていた）と私（地区リーダーだった）

の前で「**公明党の議員になれば学会員を利用して、もうかる仕事ができ**

る（彼の家は土建業）だ！。俺はもともと名誉会長のやり方には反対だ、俺は織田信長の知略と謀略の生き方がしたいだ！人脈が必要だから座談会の全地区制覇（出席の事）を目指してたのに、それを婦人部の岩志水（以前の部長の母）から止められて、俺の計略は、敗れ果てただアー！！」などとも叫んでいたし、それ以外にも、度々男子部と壮年部組織にウソのウワサを流した（どうして学会は、この類の人物がいつもでかい顔をしてしまうのか・・・）りした。

それらのことを何度大島地区リーダーに言っても「でも彼にも良いところはたくさんあるのだからそれを認めてあげないと」などと毎回言い、私の話は無視し続けた。こんな状態だから、カルト化するのは間違いないだろう。何しろこのストーカー伊能君を、後に北条君がニューリーダーにしようとしたのだから・・・いくらストーカー伊能君の父親から支部長に話があったからって、犯罪者と知っていて役職を認めるなんて・・・

学会員は悪党に対して、「人間は全員仏性があるのだから大切にしないで」と言いながら犯罪幫助でも何でもする。悪党にだまされて集団でいやがらせをしたり、時には**会員以外のお宅への嫌がらせ行為まで容認する！**

だから、確実にカルト化するであろう。

この話が、学会員に通用したためしがほとんど無い！

それで良いとでも思っているのだろうか、学会員たちは？

学会員さん、この話が分かるようでしたら、学会を清浄化させるか破壊するか2つに一つ選択して下さい。

分からないなら破壊するかあなた自身が脱会して下さい。

そうでなければ世間に酷い迷惑をかけてしまいます。

どんな事件が起こってしまうのか、それであなた方学会員は責任をとれますか？

カルト化を放置したまま拡大しようとして、財務までやって・・・

- ・ **諸天が守った**（ここの部分は私の確信の部分です。信じられない方は信じて頂かなくても結

構です。)

~~第一地区~~第二地区に、宮崎輝男さんという壮年部の方がいる（現地区部長）。この時は男子部だったが、仕事も多忙で、それから会合を遅い時間にやるのは反対で、家庭をもっていて子供3人も小さかったこともあり、会合が終わると（だいたいいつもだらだらと遅い時間まで会合をしていたので）すぐに帰宅していた。

極楽寺氏が、宮崎輝男さんの事を悪く言い始めた。宮崎さんの方が先輩だったせいか、面と向かって極楽寺氏が、かなりたてる事はなかったが、宮崎さんが欠席した男子部の活動者会や、壮年部と男子部の打ち合わせなどで、本人が居ない時に、がたがたと大声で「輝男さんはおかしい！会合も遅れてきて、終わるとろくに雑談もせずいつもすぐに帰っちゃう！信心がどうかしてしまった」などと、また同じパターンで始めた。ただ、この話にはあまり周囲が乗らなかったようであるし、多喜支部長から「最近極楽寺君が、おかしい言い方で宮崎君の事を悪く言うけど、何かあった？」と私に聞いてきたりした（よほど多方面に悪口を言って回ったのだろう）

北条君や大島君から、「部員さんを回っている間中、極楽寺さんが車の中で部員の悪口を言っている。「あいつは意識が無い」とか、がたがた言っている」という話も耳にした。これと同じ事は、これ以前にも小柴君から聞いた事があった。私の知らないところでも、他地区でも人材を潰していたかもしれない。

事ここに至り、私は極楽寺氏の事を、第六天の魔王、獅子身中の虫、池田先生に歯向かう反逆者、池田先生からお預かりしている大切な学会の組織を破壊する破和合僧、と判断せざるを得なくなった。

そして、人間革命にのっていた、戸田先生の、事業が生き詰まると諸天を叱咤するところを思いだし、それから過去に、私の兄から受けた「大切な時には、諸天を叱り飛ばすんだよ！病気の時には、薬王菩薩に、薬の中に入れ！法華経の行者を守らないとどうなるか分かっているのか？！って祈るんだよ」という指導を思い出した。

私は、御本尊に向かい、今まであげた事の無い唱題を始めた。それは、「何で諸天は、こんなに組織が潰されてるといふのに、守らないのだ！鬼子母神！おまえは魔を食い破るやつだろう！？なんであの天魔極楽寺を食い潰さないんだ！あいつはどう見たって魔だろうが？？梵天も帝釈天も、おれを守らないのなら、俺が死んだらどうなるか見てみろ！絶対に日蓮大聖人に言いつけてやる！守らないんならどうなるか見てろ！俺は、池田先生から大事な組織を預かっているんだ！その俺を守らないとは、おまえらどういう事なのか、わかってるんだろうな！？」という、諸天を脅迫するような唱題を、それこそ私の母が「死にそんな声で題目を上げてる…」と言うような唱題を始めた。必死以外の何物でもなかった。なかなか毎日は、そのような題目はあげられなかったが、思い返すように、何度か、そういう題目をあげていった。

3月になった。

極楽寺氏は、S中学から、A?M?中学へ転勤になった。極楽寺氏の仕事は一気に大変になった。組織でいやがらせに通い詰めるような時間的余裕は、少なくなった。

私の兄は、K中に転勤だった。兄に言わせると、「A中が浜松で一番荒れていて、K中が2番目に荒れている学校だ」との事だった。

仕事や活動が忙しい人たちをさんざん馬鹿にして悪口を言い続けて来た極楽寺氏が、今度は自分の仕事が大変になると、急速に組織から離れていった。

もしそうならなかったら、極楽寺氏の組織潰しは、もっと激しさを増していったであろうと思われる。

(ところで仕事が大変な人を極楽寺氏と一緒にいじめたり馬鹿にしていた人達は、自分の仕事が大変になると組織活動が出来なくなるように見受けられます。自分たちが出来もしない事で、ひどく学会員をいじめておいて、自分がした行動が恐ろしくないのでしょうか?)

・参議院選挙の件 (最終3週間の姑息な手段、報告拒否・捏造の繰り返し)

ある参議院選挙の時も私は極楽寺氏からいやがらせをうけた。

完全な比例代表選挙で、4者に詳しい報告は、確かあまり必要無かった時だと思う。それほど支援活動が盛り上がっていない時であった。しかし長期戦(3ヶ月だったと記憶している)であった。

1ヶ月くらい前になって、また極楽寺氏から例のごとく、選挙に回っていないのではないか、などという、いつもの電話が来て、今週、ちゃんと外部を回れ、などと言ってきた。

とにかく外部を当たったのだが、次の男子部の活動者会で、極楽寺氏が、大島君と北条君の活動報告を聞いた後、いきなり私に対し、私の話も聞かず、「内部はちゃんと回ったのか!?」などと話を切り出し、こちらが何を言おうとしてもさんざん私の話をさえぎり、「君はなんでちゃんと内部を回らないんだ!今度までに、ちゃんと回る様に!いいね」などとほざいていた。

ばかばかしいと思ったが、内部を回った。ところが次の男子部の活動者会で、今度は外部についてのみ、がたがた言い出した。この時も大島君と北条君の報告はとったにもかかわらず、私の報告は一切とらなかった(という事は当然、でたらめの捏造した報告を上を上げたはずである)。

もう、ここまで来ると、あまりに子供じみていて腹がたって仕方が無かった。こんなくだらない事のために、わざわざ手の込んだ事をしやがって!と思ったが、とにかく外部を回れと言われたが、次回言い返せるように、内部と外部、両方まわっておいた。

その次言いがかりをつけられた場所は、男子部の活動者会では無かった。いつも月曜日にやっている男子部と壮年部の打ち合わせで、終了後、会場の後ろに呼び出され、皆に聞こえる様に、ばかでかい声で、また例の話を切り出したのである!(この時、男子部は私と極楽寺氏のみ出席、あとは皆全員、壮年部の支部長や地区部長)

もうこの時は、私もばかでかい声で反論したが、極楽寺氏は「うるさい!」「静かにしろ!」「人の話を最後まで聞け!」「だまれ!」などと繰り返しながら、またとんでもない捏造ネタを、壮年部が集まっているその場で、でかい声で繰り返し始めた。

「合唱団のことは一生懸命やるくせに、今回の選挙では一件も活動していないじゃないか!」

などという嘘の話を、皆に聞こえるような声で大声で怒鳴り散らし続けるのである。

だいたいこの時とつくに、**青年創価合唱団はすでに活動停止状態で、**

練習など一切行なっていないのである。

ここまで真っ赤なうその作り話を会合の場で皆に聞かせて、彼は自分がやっている事が恐ろしくないのだろうか？。

それから何年たっても、捏造ネタを元に合唱団を中傷誹謗し続ける事に執念を燃やしていたが、よくもここまで信心が狂ったものである。

この時の彼の剣幕があまりに異常だったというので、この時ばかりは王地区部長始め何人か心配してくれたようで、後日極楽寺氏に注意してくれたらしいのだが、言葉遣いの事のみ注意されただけで、彼が会合の場で嘘をついているのに、誰も、とがめる人は居なかった。

後日、次の地区協議会の時に、王地区部長が私に、(心配だったらしく)「大丈夫？」などと声をかけてくれた。

「大丈夫ですよ、あのくらい」と言うと、「へええ、やっちゃんも強くなったんだ」などと、とんちんかんな事を言われてしまった。

そこで私が、地区部長に極楽寺氏の状況を説明しようとして

「いつもはもっとひどいんです、選挙の報告のこともうそばかりで…」

と切り出すと、いつも通り、首を激しく横に振り一切こちらの話を拒絶する。

とにかく地区部長は、話にならなかった。

問題なのは態度ではなく、極楽寺氏が組織破壊の為に皆を扇動し、捏造ネタを組織に垂れ流し続けている事なのに、その事は全く理解されなかった。私が、FもKもゼロなどという活動をした事など一度も無いのに！

結局極楽寺氏はこの選挙戦で、北条君（第三地区）と大島君（第二地区）の選挙の報告は吸い上げていたが、私の報告（第四地区）は一切吸い上げなかった。私には報告内容の説明すら、されなかった。

選挙戦以外でも、何度も同じ事をされたのだが、私が一切活動していない、という嘘の報告を上
に上げ続けていたのであろう。

真っ赤な嘘の報告で、とんでもない捏造ネタであるが、それを合唱団の中傷誹謗のネタにすると同時に私の悪口を組織に流しつづけていたと言う事になる。当時それに気付いていた人はいなかったはずである。

周囲が気付けば組織破壊を防げたのである！ N 町支部の人たちならばすぐに気

付いたような簡単な事なのに、黒岩の人たちは与同罪が恐ろしくないのだろうか？

極楽寺氏自身が公明党に怨執の念を抱く

ところが、その次の支援活動の時から、極楽寺氏は選挙の支援活動を一切やめてしまう。

そのきっかけと思われるのは、次の出来事である。私と極楽寺氏が参加した第四地区第1B座談会で、会合終了後、伊能孝ブロック長（当時。ちなみにストーカー伊能の父）が「〇市で以前議員をやっていた〇〇ってやつは、いろいろをにぎって活動してただ、おれはちゃんと知ってるだ。公明党は潔白なんかじゃないだ」などと公明党を中傷していた。それを耳にした極楽寺氏は、「えええ・・・？何で・・・どうして・・・ええ・・・？」などとうつろに繰り返していたのだが、数日たってから車で2人で乗り合わせていた時（同時中継か何かの時）極楽寺氏は「やっちゃんは、もし自民党と公明党が、連立を組んだら、どうする・・・？」などとわけのわからない質問を私にしたりした。

その次の支援活動となった東京都議選では、極楽寺氏は一切活動しないばかりか活動の流れを止めてしまい、その上終盤戦になりいきなり北条君と大島君が活動していないなどと誹謗中傷を始め、さんざん2人をいじめたばかりか悪口を部長会か何かで言い、責任転化をしたらしい。

（後記）

（ちなみにこの、伊能孝さんが公明党を誹謗していた座談会の時も、私は極楽寺氏から暴力を伴う嫌がらせを受けました。）それまで毎月、私と北条君は座談会の企画で男子部として研究発表を毎回やる様にして、北条君と交換して何地区かで発表していたのにある日突然極楽寺氏が、まるでいままで我々が何もやっていなかったかのような言い掛かりを付け（自分が当時やっていなかったにも拘わらず）しかも私が次回用に準備していた発表のものはとりやめせられ、座談会で男子部からみんなにテスト問題を出す、などという事を勝手に決められてしまった。私はおかしいと思い、先回りして地区部長に話をしておき、テストを中止することに決めておいた。座談会当日、極楽寺氏が座談会に監視しに来た。私の真後ろに座り、気に入らない事（私の冗談など）があると私の背中を何発も殴り、私がわざと「いまから、このテスト問題を極楽寺さんがわざわざ作ってくれたので、みんなでやろうと思います！」と言い、皆が「やめてくれよ～、そんなのは男子部だけでやってくれよ～」と笑い者にされたのを、極楽寺氏が私の耳もとで「君は一体何を言ってるんだ！君がやるんだろう！？僕じゃなくて君だろう！！君がやるんだ！！」などと暗い声でぐずぐず言っていた。

そんなところを見て、あとで赤川君のお母さんだけが「極楽寺君変じゃないの？変な顔で、やしのみ君のうしろにくっついて」と、うちの母に言っていたが、それ以外の人で、この極楽寺氏の行動をおかしいと言う人は、だれも居なかった。

後日、その場に居合わせた地区部長に、この時の暴力行為について訴えても、ひたすら面白がって笑うだけで、ふざけていてまるで話にならなかった。

極楽寺氏が、どんなに異常な行動をとり、座談会の研究発表を中止させ妨害しようが、座談会の席で私に暴力を振るおうが、私の後ろに貼りついておかしい言動を繰り返そうが、止める人間は誰も居なかったのである。

なぜそこまで、黒岩支部の人達が、獅子身中の虫の事を平気で野放しにしていたのか、本当に理解に苦しむ。）

(ところでちょうどその頃、少年少女合唱団で先生にアルバムをお送りする為にスタッフと共に必死に取り組んでいた時期だったのだが、私の推測ですがそれが極楽寺氏の耳に入ってそれで突然このような嫌がらせを画策したのだと思います。この後にもアルバムを先生の元へ私がお届けに行くのを阻止したりしましたから。後述します。)

極楽寺氏自身の、活動者会不参加の件

このように私がまるでラインの活動を一切やっていないかの様な言動を繰り返していたのだが、極楽寺氏が部長時代の3年間のうち、ライン活動に参加していたのは最初の1年目、職場がS中学からA中学に移ってからは、毎週木曜日の部の活動社会にはたびたび無断欠席、最後の1年間などは9割方無断欠席、夏休みと冬休みの期間に少しだけ参加しただけであった。

そして、以前にもまして陰険になり、例えば

①活動の流れを地区リーダーに下ろさない、又は土曜日に会合を作る等して選挙支援活動を足止めする

②終盤戦の3週間くらいで部の活動家をののしり、激怒して見せ、部の活動が止まっていたのを責任転嫁する

③責任転嫁のために、活動家に対する過剰な誹謗中傷を組織に垂れ流す

といった様な、大胆な手段をとるようになっていった。

わざと組織の流れを止め活動家の動きを妨害した上で、活動家を中傷・誹謗して部長会等で悪く言いふらしたのである。(当時、他部の部長(加藤さん)から聞いている。)

手元に置いてある小柴君あての手紙の原本に、私は当時極楽寺氏の事をこう記録している(黄色部分)

「8月～9月

3級試験の勉強会を開くべき時期に、3週連続会合すっぽかし(部の活動者会)」

地区リーダー(北条君)が3級試験受験の時に、部長が連絡も無く3週間も部の会合を放棄していたのである!そしてとにかく私は部活動者会の日には極楽寺氏の自宅へ電話を入れたのだが、彼は全く連絡が取れない。(北条君には携帯できちんと連絡が取れていた!とにかく地区リーダー同士、それから赤影本部長と連携して活動を続けた。)

そのくせ、そのすぐ後の地区大会で、極楽寺氏はまたいつもと同様のパターンで私を毘にかけた。

地区大会の報告捏造の件

その年の11月の、地区大会の時の事である。この頃には竜西本部の本部長は赤影さんになっていて、それまでの岩志水さんの時までとは違って、時々私や北条君に、「極楽寺君が連絡とれなくて困る」といって電話をかけ、戦いの流れを直接地区リーダーに流してくれた。その為私は、この地区大会の（活動期間中の）報告内容を前もって知る事が出来た。

報告項目の中には「家庭訪問数」が入っていた。

（この「報告」とは、数日置きに、何回も取るもの。活動期間終盤になれば毎日とる）

しかし極楽寺氏は、この報告を、（少なくとも私に対しては）一度もとらなかつたばかりか、

何度もわざと私から極楽寺氏に「訪問数を報告するんですよね？」と質問しても、「訪問数の報告は要らない」と、うそを言い張った。

この時点で、彼のやっている事は大体明白であった。

先の「新世紀と人間展」や選挙戦の時と同じく、わざと報告はとらず（という事は、私の地区の訪問数はゼロ？で報告があがっていたはずである）あとからうその捏造ネタで私を誹謗中傷するのである。

ただ、この時のやり方が前回と違っていたのは、終盤戦になっても放って置かれた事である。

地区を必死で回り、いくつかの内部の確約（伊能強君、梅本亜久利君、石井君、横長芳樹さん（現壮年部）、等）と外部1の確約（小林達哉さん）がとれていたのだが、不思議と当日になって皆キャンセルしてしまい、参加者がゼロになってしまった。

すでに赤川君は極楽寺氏に潰され話がまともにできず、後述するが梅本亜久利君、石井君といった若いメンバーもつぶされた後だった。

この様な中で、仕事が忙しい中、途中で抜け出して部員さんを回り、また職場に帰る、などして結集には全力を尽くしたのだが、結果は出せなかった。

この結集の結果から、また極楽寺氏からの嫌がらせが始まるのは火を見るより明らかだった。

（私は悔しさのあまり、泣きながら、当時乗っていたシビックを滅茶苦茶に走らせ、都田のあたりで車で崖から落ちてしまったのだが9死に1生を得、怪我も無く、車も無事であった）

地区大会当日の夜、極楽寺氏から連絡があり、この時も極楽寺氏は、参加者の数のみ報告をとった上、訪問数はとらなかつた。

私から、訪問数はとらないのか、と催促したにもかかわらず、「その報告は必要無い」と、報告を拒否された。

拒否しておいて、早速次の日（月曜日）、滅茶苦茶に責められた（電話で責められたような記憶がある）。私は、結集の戦いの為に会社の仕事を後回しにしていたので、滅茶苦茶に仕事がたまっていたというのに、その次の日（火曜日）の7時からの部員さん回りを強要された。

仕方なく、その次の日（火曜日）は会社を早く終わり待ち合わせをしたところ、極楽寺氏の車に乗せられ、数々の恫喝が始まった。

「ちゃんと帰って来れるくせになんだ！？仕事が忙しいなんて嘘じゃないか！！」

「どこを回るんだ！まだ決めてないの？なんで回る前に、今日は何処と何処をどの順番で回る

のか決めないんだ。そう言う事はなんで決めておいてないの？」

などと言い掛りをつけた上、私が

「部員は皆帰りが遅い人ばかりなので、この時間に帰宅している人はまず居ません」

と状況を説明しているにもかかわらず無視した上で、1件毎に隣で

「次は何処に行くんだ！？決めておけ！！」

などと、ずっと恫喝し続けていた。

そして、9時まで回ると今度はまた、青年創価合唱団の悪口が始まり、それと、全然部員さんを回らなかったなどというでたらめの捏造ネタで説教を始めた（先の戦いの時と全く同じパターン）こちらが再度、合唱団はとっくに活動を停止している事、仕事で度々帰宅が夜中になってしまう事、部員さんには当然連絡もして確約をとっていた事、など私が説明しているにもかかわらずあえて無視した上で、極楽寺氏は「**君が合唱団の活動ばかりやっていて、部員さんを回ってなかったのは知っています。いろんな幹部から、やしのみ君が変な時間に平和会館にいた、という話も、ちゃんと聞いています。仕事が忙しくて回れない、というのはウソですから、結集の結果が出るまでは毎日回ります。明日も明後日も一緒に回ろう。執念を持って、毎日、そうやっていこう。題目も、毎日2時間3時間、気合を入れてあげていこう。君がやるんだ！誰でも僕でもない、君だよ！君は一切家庭訪問をしていなかった（言い返すこちらの言葉に対し）→したときもあったというだけだろう！？とにかく明日も回るように！！**」

→組織活動もせず、日程の把握も部員の状況も何一つ把握できないような人間に、しかもこの地区の活動家・班長を潰し活動の流れもあえて止め報告まで捏造し続けていた本人に、なぜこの様な事を言われるのか、全く理解できなかった。

ところでこの時、「明日も明後日も一緒に回ろう！」というのが極楽寺氏のワナであった。この説教の事も有り、明日が創価班会であることなど私はすっかり忘れてしまっていた。

次の日、会社から帰宅後極楽寺宅に電話したが、つながらなかった。その為、一人で部員回りをしていたのだが遅い時間に家に電話があった。「きみは今日一体何をやってるの!？」などと電話で恫喝されたのだが、何を言われているのかさっぱりわからなかった。なにしろ極楽寺氏から一緒に回ろうと言われていたので、仕事の途中で無理に引き上げてきて部員さんを回っていたのである。「創価班会があったのに一体何をしていたんだ!？」と言われ、そう言えば、と思い出した。そしてここから、極楽寺氏の、わけのわからない、ひどい暗い声での、ねちねちとした、「あああ電話」が始まった。

「どこをまわったんだ？（私が、部員さん宅は10件ほど回ったのだが会えたのは小柴君と伊能強君だけでした、と報告しているのに対し）→また遊びに行つて！一体何を考えてるんだ。もう、やっちゃんの行動が、理解できないよ～。君はなんで、あ～あ、またこんな大事な時に、あ～あ、また遊びにいつて、あ～あ、部員さんも回らずに、あ～あ、あ～あ、もういいです、あ～あ、本当に、君は、あ～あ、…（私はこのような、あ～あ、を、極楽寺氏から20分くらい繰り返し聞かされ続けたの

である!」

その上、あいさつもせず一方的に電話を切られた。

組織破壊を続けている獅子身中の虫から、この様にわけのわからない電話をかけられ、怒りが込み上げてしまいつい立腹して電話機をけとばし、割ってしまった（すぐに直した）

私の父親が心配し王地区部長へ電話をした（私は王地区部長はまずいと思ったのだが、父は電話をかけてしまった）。

王地区部長が家に訪問に来た。ただ、そこで父親が王地区部長にした説明がまずかった。

組織の事に疎い父であったので、わざと自分の息子（私）に厳しい内容の説明をした。極楽寺氏が、私の家での木曜日の部活に参加していない上に駐車場を使った嫌がらせを続けた事などには少し触れたが、私はその事に触れても話をそらし、母がその事を言っても話をそらし、その上まるで私の信心が弱いからこんな小さな事が乗り越えられないのである、視野がせまいからもっとひろげなくてはいけない、などという内容の話をして、王地区部長と父が盛り上がってしまった。後で私が父を責めたところ、「極楽寺さんなんかろくでもないことばかりやってるだで、みんな極楽寺さんのやってることがおかしい事くらいすぐわかるだで。ああいう言い方をすれば地区部長はわかるだで。親はああいう言い方をするしかないで。地区部長はこれで極楽寺さんがとんでもないって言うことがちゃんとわかったで、まちがいないでいいよ」などと言っていた。この件でまた、「私の信心が狂っているのを極楽寺氏が指導している」事になってしまった。

父は、当時の第二地区の地区部長（やしのみ健、私のいとこ）のところにも説明をしに、次の日に行った（これは、私が父に頼んだ。くれぐれも王地区部長にしたような説明はしないで欲しい、その上で極楽寺氏が活動に出てこない事を説明してほしい、と私からお願いした）。それを受けて健さんは王地区部長宅へ相談しに行き、たつぷりと私の悪口を吹き込まれたらしい。

夜、私の家に健さんが、**私の信心を心配して**指導に来た。しかし、この時には私も父も極楽寺氏の信心が狂っていて最近組織から遠ざかっている事、うその噂を組織にたれながしている事、等を訴え、知ってもらった。

健さんはびっくりして、「それじゃあ、狂ってるのは極楽寺のほうじゃないか!」と言っていた（私から説明を受ける前までは、私の信心が狂っている物と思って、それで私の家へ指導に来たのである）

この時は私から、とにかく理解してくれている人がいることが力になるので、極楽寺氏に対して健さんから何か極楽寺氏に言ったりしないようお願いした。

ところで数日後、赤水副地区リーダー（当時）と一緒に王地区部長宅へ訪問した折、地区部長から「おまえ、親子で何をおかしな事してるだ。健さん宅にも、親が行っただろう! おまえら親子がたくらんでる事くらい、とっくにお見通しだあ!!」

などとへらへらしながらがたがた言われてしまい、ここでは私と父が信心が狂って極楽寺氏を怨執している事になってしまっていた。地区大会の報告が極楽寺氏によって捏造されたのに! 自分の地区で問題が起こっている時に、地区部長は一体どういうつもりだったのだろうか?!

この時の王地区部長の言葉を父に伝えたところ、全くびっくりしていた。父は極楽寺氏がこんなにまで酷く私の悪口を組織に流布していたなどは、それまで気が付かなかったのであろう。

・活動を再開した小柴君を再び悪く言う

その年の12月になり、再び小柴君との連絡が取れるようになり私と共に活動を始めると、すぐに極楽寺氏は彼の行動に言いがかりを付け始め、周囲に彼の悪口を吹き込み始めた。(よほど、本性を見抜いた人間が組織に復帰するのが恐怖だったのであろう。)

極楽寺氏から私には「君が小柴君をどう育てようとしているのかわからない。わからないんです。」などと、それこそ訳のわからない話があり、私が「組織活動に付けて、衛星中継とかに出して池田先生の話に触れさせます」と言っても、極楽寺氏は「君は、小柴君にふりまわされて、むだな時間をすごしているように、僕にはどうしても、見えてならない。そんなやしのみ君が弱い生命だから、部員さんもいつまでたっても出てこなくて、毎年、第四地区の状況も変わらないんです」

などと、完全な責任転嫁の理論を振り回した。

小柴君を集団でいじめるように仕向けて退転状態に追い込み、又、第四地区の部員さんたちを徹底的に潰したのは極楽寺氏本人ではないか！

そして、私と小柴君が活動に行っている時に私の自宅へ極楽寺氏から電話があり、うちの母がその旨を伝えたところ、「また遊びに行っちゃった！」などと電話口で激怒していたらしい。

人の活動を遊びなどと中傷する前に、部長なのだからせめて部の活動者会くらい参加したらどうなのか？

・さらに続けて小柴君の悪口を言い続ける（会合参加への言いがかり、等）

1月になっても極楽寺氏の狂った行動は続いた。

再三（といってもほんの1ヶ月くらいの間の出来事だが）、「小柴君が衛星中継や平和の会合に出るのに部の会合に出ないのはおかしい。何があったのか正直に話してみて」などと何度も言われた。ほんの1、2ヶ月小柴君が活動を再開して平和会館の会合に参加しただけで、もう極楽寺氏は「正直に話してみて」などと再三言うのである。よほどやましい事でもあったのであろう（当然だが）

ある夜、折伏戦で仏法対話に小柴君と共にI市、F市へ出かけた時の事、その日は活動者会があったが帰宅できなかつた為欠席した。欠席の連絡は、携帯電話からきちんとした。

すぐに後日極楽寺氏から「小柴君とやっちゃんが、連絡も無しにびゅーっとどっかに行っちゃうもんで、こっちは動きがつかめない。携帯は持っているんでしょう!？」などとぐずぐず言いがかりをつけてきた。馬鹿もいいかげんにしてもらいたい。会合欠席の連絡は携帯電話からしっかりやってあるのである！それとも、我々が折伏戦に出かけるのに、いちいち極楽寺氏の許可でも必要だと言うのであろうか？極楽寺氏に事前に連絡しなければ、我々は折伏戦にも出かけてはいけないという事か？どこまで狂っているのか、自分で判断がつかないのだろうか？このころ悔しかったのは、北条君と大島君が極楽寺さんの事を信頼していて、「極楽寺さんは小

柴君の事を本当に心配していていつも小柴君の事を言っている」などと激しい思い違いをしてしまって、私の説明はまるで聞いてくれなかった事である。そしてその後すぐに北条君がいじめられ、5月にはその北条君と大島君が都議選支援の妨害をされた上組織に筋違いの悪口を言われるようになってしまった！（北条君、大島君は獅子身中の虫に対して決して怒らず、誰にも相談しなかったのだが、それでは与同罪になってしまう！組織破壊に気が付いたならば自分が不利益を被ると分かっているにもかかわらず報告を上げなければいけない。もしそれで逆恨みを買って復讐される可能性があったとしても。）

・ 再び人材G批判

北条君が人間革命の勉強会を行う人材G「新世紀塾」に1年間？入った。責任者は〇さん（確か当時県青年部長。現・総県長）

これで北条君は大変発心したのだが、当然、部の活動者会と重なる日もある。

極楽寺氏がこれに立腹し、冬休みにたまたま参加した（木曜の）部の活動者会で「創価学会の人材Gなど、できては消えてしまうものばかりだ！そんなものは最初から作らなければいいんだ！」などと、狂った事を叫んでいた。（学会組織に対する中傷誹謗！）

極楽寺氏本人はこの年、夏休み、冬休み、春休みとほんの数回しか部の活動者会に参加しなかったにもかかわらず。

・ 北条君の悪口を言い始める

今ではあまり記憶に無い事もあるが、保管してある小柴君あての手紙の原本があり、当時の事が記録されている。再びここに転記する。（黄色で着色した部分が手紙の文面）

「2月

北条君、大島君が仕事でパンク、（事情の説明は北条君から何度もあった）

2月前半

極楽寺さんが（北条）宗雄君の悪口、又、宗雄君の会社の悪口を言い、赤影さん（本部長）にも吹き込んでいた。

2月後半

本部唱題会がY宅にて始まる（土曜を含めた毎日夜9：00～）極楽寺さんは、最初の2週間（2月下旬～3月始）連絡も無しに毎日すっぱかした」

・ また極楽寺氏本人が活動から遠ざかっていった

上記の通り、彼には連絡報告というものができない。但し、他人に言いがかりをつけるためだとかそういう時だけは部の会合に参加したりして、それが終わると組織から離れる。

手紙の文面の続きを記す。

「3月

部の活動者会毎回すっぱかし、ほとんど連絡も無し。

本部唱題会に出始める。

極楽寺さんより 出られなかった理由として

「僕は早い時間に来ていたのですが、会場が閉まっていてだれもいなかったものですから、やってないと思って休んでました」←ウソ」

こんな言い訳は呆れてコメントを書く気にもなれない。馬鹿馬鹿しい！

さらに続きを書く。

「極楽寺さんより、唱題会にて、「みんな、唱題を続ける程、活動家が疲れて出なくなってしまうって、最近の新・人間革命にも、長（主催者）が、「どうでもいい」とか思ってやる会合は意味がなくなるって書いてありましたけれど、恐ろしい指導ですよ」との話が、2度にわたってあった。（会合の悪口と自身への言い訳）」

自分が会合に参加もしていないくせに知ったような口を叩くものではない！

池田先生の指導を自分の言い訳に使うべきでは無い！

よくも合唱団、未来部、公明党、新世紀塾、本部唱題会、創価班、と、学会の組織を一から十まで悪口し誹謗中傷できるものである！

ところで私は、この時が良い機会と思い（極楽寺氏本人より、会合ばかりやってもだめだという話があったから、それを逆にとり）「部員さん回りなどを会合よりも優先する事が必要だろう、遅刻もする時も当然あるだろう」と私から話を持ち出し、極楽寺氏と赤影本部長の賛同を得た！（極楽寺氏はこの時、大賛成していた）

大賛成しておいて、5月には正反対の事を言い出し、今度は自分が勝手に**（都議選支援の為、土曜日の会合が禁止されたのに反発し）土曜日の夜9時から部の唱題会を池田宅で開始し、土曜日の活動を禁止（！）し、さらに活動の流れも止めてしまい、活動家の支援活動を妨害するようになった！**

・東京都議選の件（公明党に対する怨執から、支援活動への妨害を開始する。）

先に記載した、私に暴力を振るった座談会で公明党の悪口を吹き込まれた極楽寺氏は、この年の都議選支援から支援活動を停止した。しかし彼が勝手に活動を放棄したのではなく、責任を我々活動家に転嫁できるよう、いつものパターンで今度は北条君と大島君を罠にかけた。

① 活動家が支援活動を出来ないように妨害を始める

5月4日になり、突然極楽寺氏より「明日、北条宗雄君宅で唱題会をやります！」などと連絡があった。

しかし次の日には、突然だったのでやはり止めますとの事。池田宅には皆行ったのだが、これから木曜日と土曜日の週間体制にする、などと極楽寺氏が（急に）決め、解散した。

実は4月から、既に都議選の支援体制に入っていて、極楽寺氏にも連絡が行っていた。赤影本部長から聞いたのだが、土曜日は会合禁止との打ち出しもきちんと伝えてあった、との事（！）私も当然、自分の地区から流れの事は聞いていて、5月の連休は東京の交流をする事になっている事も私は知っていた。なので、東京の親戚2件（太田区と国立市）へ、家族で泊まりで連休を使い行ってきたところだったのである。

5月5日に皆で集まった時に私が東京に行ってきたと言った為、極楽寺氏は終了後に（北条君のアパートの階段を降りる直前のところで）「ところで、東京なんか何しに行ってきたの？」な

どと言いだした。そこで私は「都議選のF取りに、家族で行って来ました！」と言ったのだが、極楽寺氏は急にうろたえた様子で「ええ？・・・何で・・・ええ・・・？」などと言いだした。その様子がどうにも理解できなかったので、「どうしたんですか、何かありましたか？」と聞いたところ、「いや・・・、早いなあとと思って・・・」などとうつろな様子で言っていた。よほど、私の活動の足止めが出来なかったのが口惜しかったのであろう！（又はそれもわざと演じて見せたのか、？全く理解できない。）

そして5月8日には平和会館で地区リーダー会があり、そこでもはっきりと土曜と日曜日の会合禁止が打ち出された！土日は支援活動の為、会合を開いてはいけなかったのである！

私はこの時、5月7日（水）～9日（金）は未来部を訪問していて、男子部への訪問・連絡が出来ず、座談会等の連絡が遅れ気味になってしまっていた。

なので5月10日（土曜日）、座談会や男子部活動者会の連絡に回った。それから会友の小林達哉さん宅も訪問し話が盛り上がったので夜9時10分、私は小林宅から池田宅へ遅刻の連絡を入れた。極楽寺氏はその時、まだ居なかった（極楽寺氏は遅刻）

9時45分、私が拠点に到着するなり極楽寺氏より「今まで何をやっていたんだ！」などと言われた。そのまま唱題は10時すぎまで続き、その後極楽寺氏より、どこに言っていたのか聞かれた。

私は、男子部数件とあと小林さん宅を回った事を報告すると、極楽寺氏は「小林さんのところに行っているなどと思っていました。別の日にして下さい。**わざわざ土曜の夜に行かないように**」との事。私はさらに、小林宅へしばらく訪問できていなかった事、座談会の連絡が遅れていた事などを説明したのだが、極楽寺氏は「そんな事はわかっています。知っています。」などと（ウソの台詞を）繰り返した。

そしてさらに少々の連絡事項の後、極楽寺氏より「せっかく僕を含め、皆が仕事を一区切りついて会合ももてるようになったのに、これから会合をしっかりやっていくので、土曜の9時には来て下さい。**回るなら他の日にして下さい。**」などと、またとんでもない事を言いだした。

土曜日の活動について「回るなら他の日にして下さい」などと徹底するなど、本当に狂っているとしか言いようが無い。

支援活動期間の土曜日の活動をこんな狂った部長に禁止される筋合いは全く無い！

しかも禁止されている土曜日の会合をわざわざ開始してまで！

だいたいその日は極楽寺氏自身が遅刻しているのである！

その時私だけが極楽寺氏に反発したが北条君と大島君はおとなしく極楽寺氏の言うことを聞いているだけだった。その北条君と大島君が、今度は酷い目にあうようになっていった。

②都議選の流れを活動家に全く流さない

いつものパターンをまた始めた。いつもと違うのは、私一人が酷い目にあったのではなく、今回は活動家3名全員が報告内容等全く何も聞かされなかった事だった。

極楽寺氏は、木曜日の部活動者会はまだ完全に無断欠席、しかし土曜日の唱題会は続けた。

そしていつものパターン通り、終盤戦になり活動家への責任転嫁を開始した。

③終盤戦 3 週間・北条君と大島君を繰り返し恫喝し、自分は支援活動を行わない

私は支援活動に（4 者組織について）参加できたが、北条君と大島君は仕事が多忙という事もあり、又、極楽寺氏が支援の流れを一切降ろさなかったのも、両名とも東京に知り合いもいないし、支援活動は一切やっていた。

投票日 3 週間前の土曜日、突然極楽寺氏がキレて、両名を恫喝し始めた。

「何で北条君も大島君も！東京の知り合いをまだ探してないの！！？」

などとガタガタ怒って見せる。両名共、私などとは違って反発は一切しないで（相手が魔でも）従順に従うタイプなので、「すみません、知り合いが東京にいないもので」と 2 人共言っていた。

それに対し、極楽寺氏は「僕は三軒茶屋に知り合いがいる。北条君も大島君も、来週までに知り合いを必ず探して来てね。わかったね！？」などと大声で責め続けた。

次の週の土曜日も、北条君も大島君も東京の知り合いは見つからなかったのも、さんざん極楽寺氏から怒鳴り散らされ続けてしまった。

そして投票日の 1 週間前の土曜日、何とか両名共一人ずつ F 先を見つけてきた。

その次の日曜日、極楽寺氏の車で極楽寺氏、北条君、大島君の 3 人で東京へ行き、北条君と大島君は「もう絶対、極楽寺さんとは東京へ行かない！」と言うくらい、車中でひどい嫌がらせに会って帰ってきた。

もう、ずっと車中で極楽寺氏は怒鳴り散らしっぱなし、ずっと両名を恫喝し続け、それこそ曲がり角で北条君が少し迷っただけでも「はあ？どっち曲がるの？はっきりしろ！」などととにかく怒鳴られ放題だったそうである。

それだけではない。

極楽寺氏は「僕は知り合いが三軒茶屋にあるから」などと、ずっと威張り続けていた。

しかし極楽寺氏は当日、そこには一切寄らずに帰宅して来た！

冗談では無い。極楽寺氏は最初から、支援活動などする気は一切無かったのである。

何しろ、浜松に帰宅して来た時間は、昼間の 3 時すぎだったのだそうだ。

④部長会で、北条君と大島君を誹謗中傷する

本当に、極楽寺氏の「いつものパターン」である。

自分が活動したくないし、それに上からの指導の矛先は活動家たちに向けたい、という、狂った行動パターンなのである。その為にわざと活動の流れを止め、長い時間をかけて活動家をワナにかけるのである。

赤影本部長（当時）も、それから他の部の加藤部長（当時。その後本部長になった）も、私に

「北条君と大島君、何かあったの？極楽寺君が部長会で、えらい剣幕で怒ってたけど？」

「北条君と大島君、何かやったの？」

と聞いてきた。

私は北条君と大島君は何も非が無い事、極楽寺氏が支援の戦いを妨害している事を 2 人に訴えたが、どれだけ話が通じたかは不明。

⑤後日談

都議選終了後も、木曜日の部の活動者会には全く極楽寺氏は不参加。そして土曜日の会合にも、極楽寺氏はひどい遅刻（私が電話で呼び出すまで来ない）を繰り返すようになった。

しかし、なぜか少年少女合唱団練習日の前日にはきちんと時間通り参加した上、他の活動家が見ている前で合唱団の活動について私を罵倒しわめきちらした。

「あしたの動きは、どうなってるか説明して！」

「また合唱団のことばかりやって、男子部の活動は何もやっていないじゃないか！」

「弁当持ちで午前と午後！？そんなことはいいかげんやめろ！」

などと、自分が退転状態で男子部の活動の流れも知らないくせに、合唱団の運営にしつこく干渉し続けた。

日程表に未来部の日程がのるようになったので、それを見て行動していたのだろう。

土曜日の会合には、やる気がない姿で参加（私が電話で催促するので）し、しかし合唱団を誹謗中傷する目的がある日にはきちんと参加し自分の目的を果たすのである！

そのうち極楽寺氏は、その日程表すらも持たなくなってしまう活動の流れから完全に外れたが、極楽寺氏が流した私に関するデマの噂話は組織内で何年も生き続けてしまい、いろいろな活動上の足かせとして私と未来部組織の前に立ちはだかり続けた。

・後日談② 駐車場を使った北条君への嫌がらせ

極楽寺氏は、私の家に来るときは必ず神社に車を止め、私が苦情を言っても無視し続けた。

（その神社、昔は私の父と宗教の違いから酷いイザコザがあったところなのである）

いいかげん私の父が怒り、極楽寺氏に怒鳴りつけたものだからようやく極楽寺氏は私に対する駐車場を使つての嫌がらせをやめ、他の場所に駐車してくるようになった。

しかし、北条宗雄君へも、駐車場を使った嫌がらせを繰り返していた。北条君のアパート（当時土曜日の唱題会の会場）に行くときには必ずファミコンショップ「E」の駐車場、それもわざわざ店の自動ドアの正面（！）の白線に駐車して来た（必ず毎回！）。

ある壮年部から、「あの店はヤクザが経営している店だから停めないほうが良い」と警告があっても、それで活動家3名で抗議しても、逆ギレするばかりで態度を改めず、北条君への嫌がらせを続けた。

その事を当時の支部長（多喜さん）に相談したところ、かえって私と北条君が悪いかのようになり、支部長もキレてどなりちらしてしまった（極楽寺氏から何か吹き込まれている様子であった。）組織の指導に反発して土曜日の唱題会を開始し、土曜日の活動は禁止し、自分は電話で呼び出されるまで出席しなくなり、しかも北条君には駐車場を使つたいやがらせをずっと続けたのである。

だいたいほとんど木曜日の会合は部長が無断欠席するようになり、父がはっきりするよう電話で怒っても極楽寺氏は「今日は行きます」などと言い結局来なかった。父は激怒したが会場提供者としては怒って当然！

この駐車場の件を多喜支部長に相談しても、支部長が逆切れし、他の事も言ったのだが「極楽寺君は純粋なんだろう」などとわけの分からない事を言われ、全く話にならなかった。一緒に

居た北条君も、支部長からちょっと逆切れされただけで顔が真っ青になってしまい、下を向いたまま何も言わなかった。私はがたがた言い続けたが、支部長は何も話を聞こうとしなかった。だいたい、木曜日に私の自宅を使うようになったいきさつは、元々は多喜支部長宅を使っていたものを極楽寺氏が無断で繰り返し欠席したりしていた事もあり支部長が怒り使用できなくなったかららしいのである。(他のとんでもない事情も有るのかも知れないが) それで私は極楽寺氏に「どうして多喜支部長宅が使えないんですか」と聞いたところ、極楽寺氏は吐き捨てるように「下らない事だよ・・・」などと言っていたが、多喜支部長宅にも私の家にも北条宅にも迷惑をかけ続けて、彼は学会の拠点を一体何だと思っているのだろうか。

それにしても残念なのは、一時期とは言え多喜宅での男子部の活動者会で、多喜支部長（当時）は私一人が出席して極楽寺氏は無断欠席し続けたところも実際に見たのだから、極楽寺氏が組織破壊に狂っていた事もきちんと理解して欲しかった。極楽寺部長が後輩をいじめている事を私も小柴君も支部長には訴え、北条君だって一応私の訴えに付き合っている（少くくらい支部長に逆ギレされたくらいで青くなって黙り込むのではダメなのだが）のだから、支部長は逆ギレして話も聞いてくれないなどという態度はできればとって欲しく無かった、我々と一緒に極楽寺氏の組織破壊を止めて欲しかった、と、後になってもつくづく思う。

このような狂った人間に、学会組織の人がこれ以降もさらにだまされ続けてしまった事、後から考えるに本当に残念で仕方無い。本当に、彼の暴走を止める手立ては当时无かったのだろうか？ 私は最初に書いた N 町支部の例からも、実は簡単に止められた事だと思う。不正統監を止めれば良かったのである！

もう、私は黒岩では極楽寺氏を指導するのは無理だと思うし、しかも彼の住所は N 町であり組織は S 支部であるはずなので、30年間以上も不正統監を続けているのはいいかげん止めたらどうか、と強く思う。

・多喜支部長が洗脳されてしまう

(先の内容と重複するが)

多喜支部長（当時）に理解してもらおうと、まず最初は小柴君と一緒に、支部長宅に相談に行った。その時はいろいろと話を聞いてくれて、「極楽寺君に、今度一言言っとくよ」との事だった。

(この時に小柴君に出した相談の手紙の原本は、私の手元にある。)

後日、今度は北条君と一緒に訪問したのだが、**すっかり洗脳されてしまっていて話にならなかった。**(漢土少年部長と同じ様に)「そんな感じじゃなかったなあ」と言い出し、こちらから相談していることは嫌な顔をして無視されたり途中で話を途切れさせられたり、逆に怒り出してしまい、全然話にならなかった。

極楽寺氏が正直に自分の非を認めるはずなど最初から無いのだから、洗脳されてしまっただけである。それよりも我々3人からの苦情を事実と受け止めて欲しかったのだが。

黒岩支部で信心をしていると、獅子身中の虫と戦うという事がどういう事なのか、皆分からな

くなってしまうのでは無いか。

後年、支部で10年？間少年部員会が開催されず放って置かれても誰も問題視せずH本部の少年部長（当時、本木君）と一緒に支部婦人部長宅へ少年部員会開催のお願いに行ったにも関わらず（支部婦人部長の返事はとても良い物だったが）当時の壮年部未来本部長の極楽寺氏（私の兄が支部長を辞める時に、極楽寺氏をわざわざ指名してしまった！！）と少年部担当の大島君が少年部員会を放置し続けていたのを誰も止めなかったのだが、当時の黒岩支部は学会組織でも珍しい、子だくさんの支部であって多くの少年少女部員がいたのである。

一体いつまで、このような愚行を、皆で繰り返すのか。

黒岩支部で信心をしていると、池田先生よりもシガラミの方が大切に思えてくるのだろうか。

学会の宝である王子王女の未来部員育成よりも、シガラミの顔色を伺う事の方が大切だ、と思っていたのだろうか。

北条君の携帯電話の件（夏、SPEEDがS市に来たコンサートの前日）

くどいようであるが極楽寺氏は本当に連絡報告が出来ない部長であった。

しかしある時、平和会館Fの間で行われた区の男子部活動者会で、戦いの流れについてFゾーン男が皆に激を飛ばした会合の事。極楽寺氏は会合参加、北条君は仕事多忙の為欠席していた。区の会合終了後、本部別に集合したところ、極楽寺氏が1階のロビーでR本部の活動家みんなに聞こえるように、でかい声で北条君の悪口を叫び始めた。

「北条君はおかしい！全く連絡が取れない！！」などと言い出し、「赤影さん、携帯貸して！」などとわざとでかい声で本部長の携帯電話を借りて見せ、「またつながらない！いつもそうだ！いつも電源を切っちゃってる！！」などという事をでかい声でがなりたて続けた。

馬鹿馬鹿しいがこの頃ろくに極楽寺氏自身が活動などまともに行っていないし、（くどいようであるが）毎週木曜日、私が自宅から電話しても極楽寺氏には通じない事ばかり！極楽寺氏の母親が信心反対で、「居ません！」か「寝てます！」と言って切ってしまうのである。そして自宅への電話以外に彼への連絡手段は全く無かったのである（後日、副本部長になり周囲から問題視されても平気で開き直って「もう携帯を買うので」などとウソをつき続け、さらに周囲から責められて携帯電話を購入した上絶対電源を入れず、極楽寺氏の連絡拒否は酷く全く話にならなかった）

しかも私から北条君へは木曜日にきちんと連絡がとれていたのである。（彼から欠席の連絡が来たり、私から確認したり）

私はこの活動者会の事を北条君に手紙で伝えたところ、次の日（男子部4人でavexのS市でのコンサートに行った）北条君から、昨日はビルの中で仕事していたので電波が通じなかった事、そして極楽寺氏から普段連絡など全く無い事が確認できた。

極楽寺氏が平和会館のロビーで皆の前で絶叫していた事は、真っ赤なウソの作り話だったのである！

極楽寺氏が部長としての活動を放棄して置いて、連絡がきちんととれる地区リーダーの事を本人が居ない場所で悪口して見せて、周囲にはまるで極楽寺氏が連絡の努力をし続けているかの

ようなデタラメで卑劣な言動を、R本部の活動者が集まっている場で大声で行うなど、一体どこまで狂っているのか？学会員の悪口を大声で繰り返し、何も知らない周囲の学会員たちをだまそうとするなど、彼の生命はどこまで汚いのか？

この時の彼の行動の理由の一つは極楽寺氏自身が活動出来ない事の責任転嫁であろうが、それにしても過剰な、地区リーダーに対する誹謗中傷では無いか？！

・夏休みと冬休みに少し参加、春休みに連絡不通→職員旅行

重複するようであるが極楽寺氏は部長時代の最後の1年間ほぼ木曜の会合へ不参加になり、夏休みと冬休みに1、2度参加しただけで後は何も参加しなかった。又、先に書いた件とは別の事だが、R本部の朝の勤行会（日曜日）に無断欠席をし、赤影本部長が「極楽寺君、連絡がとれないんだけどやしのみ君何か知ってる？」と聞いてきたが私も一切何も聞いておらず、そして後日わかったのだが彼は春休みに職員旅行へ行っていたのである。組織には一切、連絡もしないで！

・Fゾーン男子部長（当時）の件

Fゾーン男時代、いろいろと極楽寺氏が活動家の悪口をゾーン男に吹き込んでいたらしく、例えばこんな事があった。極楽寺氏が私の家での木曜日の活動者会を無断欠席し続けていた頃の話である。

新聞啓蒙の戦いが激しかった時、極楽寺氏は部の活動者会を無断遅刻・欠席し続けた。

しかしある日突然、時刻通りに極楽寺氏が来たので私はびっくりした。そして、Fゾーン男子部長（当時）が来た。

しばらくして北条君と大島君が血相をかかえて会合に来た。私は、この2名が仕事が多忙でとても会合に参加できる状態では無い事を知っていたのでびっくりし、何かあったな、と直感した。

ゾーン男子部長は北条君と大島君に対し、厳しい信心の打ち込み？を始めた。

「仕事を犠牲にして信心していれば、功德で仕事も楽になって儲かるようになる・・・」云々、長々と厳しい口調で言っていたのだが、北条君と大島君は会合欠席の際は私に連絡をくれたり、連絡が無い時は私から電話したりして、我々3人の間では連絡がとれていたのである。

指導されるべきは本来、無断欠席や無断遅刻を繰り返し、しかも連絡が取れない極楽寺氏に対してであったのだが、極楽寺氏はゾーン男を呼び、そのような時だけ活動しているふりをし、北条君と大島君には厳しい指導がされてしまいその上極楽寺氏がやさしくフォローするような言葉を北条君と大島君にかけていた（！）

しかも次の週、早速極楽寺氏は無断欠席、私から電話しても連絡がつかずならなかった！

彼の責任転嫁の一つの例である。

・先の「後日談」のさらに続き（蛇足のようであるが）

ある支援の戦いの終盤線、今度は男子部のY F君のところへG県まで本尊をもたせに行こう！

という話を持ち上げた。

それにしても理解できないのは、北条君も大島君も話に乗り気で、面白がって「やっちゃんも一緒に行こう」などと3人で誘って来た事である。

私は北条君、大島君には絶対行かないように！と主張したのであるが、この2人はまるで聞かず、楽しんでG県まで（選挙戦終盤にもかかわらず）行って来たのである！

4者も喜んで、確か座談会でも発表され誉められた？らしい。（周囲の方々の極楽寺氏に対する指導は間違っている！）

後日、極楽寺さんの荒い運転の仕方などを北条君も大島君も本当に楽しそうに何度も語っていたのであるが、選挙終盤戦の大切な時に日曜日をまるまる潰して3人の活動家がまるで違う活動に行った事を楽しそうに話さないでもらいたい。それに、4者もそれを賞賛して喜んでしまうなど、もってのほかである！（この北条君が今の県青年部長、大島君が区の男子部長）

それまでも選挙のたびに極楽寺氏は活動家を妨害していたにもかかわらず！

こんな事では極楽寺氏を厳しく指導してあげるのは到底無理であるので、とにかく即刻不正統監を止め、彼はS支部へ移行すべきである！

これでは極楽寺氏だけでなく、周囲の方々もどうか？大切な法戦のさなかに一体何をやっているのか？？と、思わざるを得ない。

このような事は、別に選挙が済んでからでも出来たのだから。

極楽寺氏に対し警戒心が無ければ、信心がどんどん狂わされてしまう。

黒岩支部の人たちにはそれが分からない。

活動の妨害を喜んで四者で賞賛するようでは組織は自滅する。

創価班大学校の件（梅本亜久利君をだまして大学校に入れ、退転状態へ追い込んだ！）

①梅本亜久利君はだまされて平和会館に呼ばれ、大学校へ入校させられた

創価班大学校生募集の時期が来た。

極楽寺氏は私に、梅本亜久利君を大学校へ入れようなどと言ってきたが、私はきつく反対した。しかし私が少年少女合唱団打ち合わせで平和会館にいたところ極楽寺氏が来て、「梅本君はしっかり決意して、大学校へ入ったから。やしのみ君からも、しっかり激励してあげて」と言ってきた。

梅本君がしっかり決意するなんて本当にすごい！と思い、平和会館で梅本君のところへ行った。私が「すごいね、創価班に入るなんて。会員さんの安全を守って会員さんに尽くすところだから、絶対成長できるから」と私が話を始めたところ、梅本君は「いや、何も知らないんですけど・・・」と言い出した。

それから梅本君の説明を聞いたのだが、先の極楽寺氏の言葉が真っ赤なウソだったことがすぐ分かった！

梅本君は、入校の決意など一切していない。大学校の面接などとは知らされず、「同時中継みたいな会合なんだと思って、来ました。（私の質問に対し）極楽寺さんから何にも聞いてないです。

説明も何も無かったです。」との事。髪型は七三に分けてくるように言われていたが、その他の説明は何一つ聞かされていなかった！

②本人の希望を一切聞かず、大学校を止めさせないで、退転状態へ追い込む

何も知らない梅本君は、大学校の会合に一度参加し、すぐに辞めたいと強く希望した。

大学校の担当者として、北条君がついた。

私は北条君が、極楽寺氏について、この時の卑劣な行為と今までの狂った信心の姿を徹底して幹部に訴えるなどして、梅本君を徹底して守るべきであったと思う。しかし北条君は逆に、とにかく指導と家庭訪問を繰り返し、全力で何度も何度も梅本君宅への家庭訪問を繰り返し、ついには梅本君の父親までもが激怒しても訪問を繰り返し、大学校へ参加させようと努力し続けた。

極楽寺氏はまた王地区部長を煽り、この出来事に参加させた。

極楽寺氏に連れられて私が梅本君宅を訪問（極楽寺氏はガタガタと梅本君へ説教し、そこへ梅本君の父親も出てきて怒っていたところ）しているところへ、王地区部長がやってきて、梅本君が情けない男であるかのような説教をし始めた！

「梅本君、何でもそう！会社だって入社してすぐに止めますなんてのはダメで、そんな事をしていたら自分がダメになるで、だもんで梅本君、すぐ辞めますなんて情けないぞ。なあ。せめて3ヶ月は、続けてみてからそういう話はしないと。だから3ヶ月、やってみるさ。ね。」などと言い、彼が、何も知らずに（だまされて）入った事を説明しても、とにかく続けろと言いつづけたのである。

この頃には長島ブロック長から「梅本君、創価班なんかに入れて大丈夫？」などと私に聞いて来た。私は「絶対無理ですよ！極楽寺さんが言うには、決意して入ったそうですが。」とだけ言っておいた。本当は、あなたがた先輩が極楽寺氏を調子に乗せるからこんな事になったんだろう！と思ったが。

私はもうこんな事に付き合いたくなく、極楽寺氏や北条君と一緒に梅本君宅を訪問するなど絶対嫌だったが、北条君からは「やっちゃんも行ってあげて。梅本君ダメだから」などと熱心に言われた。

梅本君のところを熱心に通って指導を続けるよりも、狂った極楽寺氏が指導を受けられるように熱心に幹部のところへでも通ったら良かったのではないか？

北条君がこのように極楽寺氏の悪と対峙せずかえって悪事に加担してしまう結果になったのは本当に残念である。

度重なる悪事を見続けていながら、上への報告をきちんと行わなかった北条君の当時の行動は間違いである。

それで獅子身中の虫に勝利し組織を拡大できるなど、決して思ってはならない。

③極楽寺氏本人が創価班組織を怨執してしまう！

極楽寺氏、北条君、大島君から聞いた話だが、大学校団長が自分から梅本君の自宅を訪問する事は全く無く、「創価班なのだから、あいつ（梅本君の事）がこっちに来るべきだろう」と言い

張っていた、それで梅本君は当然被害者なので「団長がうちに来て話を聞くべき」と怒っていた。

よほど極楽寺氏が団長に対していろいろ吹き込み煽っていたのではないかな？

ちなみにこの時の大学校団長はF氏（先に書いた時のゾーン男子部長）であった。

そして大学校の卒業式は、成人式の日に行われた。

梅本君、それともう一人極楽寺氏が入れたK君（第三地区）が成人式の年齢であったため、この日取りの件で2人共激怒した。

梅本君はすぐに退転状態になり、K君はその後紆余曲折を経るがこの時の事が原因でやはり退転状態になる。そして当時梅本君宅に住んでいた親戚の石井龍馬君も退転状態になってしまった！

そして、何故か、それ以降、梅本君をダメした上に周囲を扇動し地区部長まで動かした張本人の極楽寺氏自身が、創価班任務と指導会への無断遅刻・欠席を始めてしまったのである！（後述する。とんでもない事を創価班組織で繰り返した）

全く馬鹿馬鹿しい。自分が傷ついたのかどうか知らないが、自分がいじける前に、この3名の男子部員さん達にしっかり謝罪したらどうなのか？

人を徹底的に酷い目に合わせておいて退転状態に追い込み、そして自分がかえってイジケてしまうなど、一体彼はどういう人物なのか、本当に理解に苦しむ。貴重な人材を潰してしまったのに！自分が組織を煽っていたくせに！

石井龍馬君の件

①梅本君の件で、石井君も退転状態へ

梅本君の親戚で、以前は梅本宅で暮らしていた。それから後、アパートに移って住んでいた。梅本君と石井君は高等部の時から私が訪問し続けていて（私は少年少女部担当になる前に高等部担当をやっていた事がある）、部員会にも参加してくれていて、男子部になってからも衛星中継も私と一緒に来てくれたし、先の新世紀と人間展にも家族で参加、任用試験を梅本君（石井君も一緒だったか？）が受験する事になったので私の家で私が教え、その時も2人で参加していた。

当然、梅本君本人が退転状態になり梅本君の父親も激怒させてしまったのだから、石井君も退転状態になってしまった。

家庭訪問はできた（留守がちだったが）ので訪問を続け、又、よく私は置手紙をさしておいた。それにしても（当然かも知れないが）極楽寺氏は部長のくせに、彼のところへ全く家庭訪問を行わないのである。退転状態になって会合不参加になった部員さんを放置するなど、どういう部長なのだろうか？

②九州引越しの際、無理矢理御本尊を持たせようとする

石井君が九州の親戚へ引っ越して行く事になった。

そこで極楽寺氏、それから岩志水さんが私も誘い、3人で御本尊を持たせるよう勧めに訪問す

る事になった。

石井君本人からは引越しの準備で手が離せないと言われたのだが、岩志水さんが30分ですむから、手間をとらせないから、と言い上がりこみ、そして夜中の12時近くまでずっと帰らず「絶対に御本尊を持っていくのは必要です。これは後で絶対良かったって分かるから。持っていないと本当に後悔するから。だから君の為にも、どうしても御本尊は持っていこう」等、説得を続けた。石井君本人は、固く拒否し続けた。

そこへ、「こんばんは！」と、当時石井君と一緒に住んでいた彼女が顔を出し、「もう時間がありませんから」とはっきり断り、岩志水さんも極楽寺さんも、「ああ、ごめんなさい、すみません帰ります」などと石井宅を後にした。(彼女は引越しの準備に来ていたのだが、3時間もの間、ずっと外で車の中で待機し続けていてくれていたそうである。)

③石井君の彼女について、極楽寺氏がウソの話で周囲を扇動しようとした

後日(次の日?)岩志水さん、極楽寺氏、そして私と3人で王地区部長宅へ行き、この時の話をした。

それで極楽寺氏が「おかしい彼女が出てきて、いきなり挨拶もせず(←とんでもない極楽寺氏のウソ!)帰れて言ったもんで。あれはおかしい!あの彼女とは分かれさせないといけない!」などと激怒して見せ、岩志水さんが「あいさつはしたと思うんだけどなあ」と言っているのも無視し、そして後日、今度は梅本君のお母さんに同じ話をし、今度は長々と、梅本君のお母さんの不安をあおり、とにかく分かれさせないとあれはあいさつもできないおかしい女だ!とウソの話を吹き込んだ。

いちおう私は後日、梅本君の母親に、極楽寺氏はおかしいので話は真に受けないように、彼女はあいさつもきちんとしていたのだ、と説明したが、どこまで話が通じたかは定かではない。

又、王地区部長とも後日話をしたが、この時はさすがに王さんも「あいつら(岩志水さんと極楽寺氏)、普段ちっとも石井君の家に行っていないくせに、こんな時ばかり何だあ?そんな、人のところに御本尊持て!持て!っていうくらいなら、普段からきちんとして行ってやって話してやればよかったじゃないか!それを今まで何にも指導もしてなかったくせに。なあ!」と私に言った。私も全く同感である。私以外、一切誰も訪問していなかったのだから!

普段訪問していない(=あまり面識も無い)家に無理に上がり込み、30分などと言って3時間も居座り、彼女を夜中まで車の中で一人で待たせ、その上後日、ウソのうわさで彼女の事を悪口し他人を扇動しようなど、あまりに傲慢で私には全く理解できない。

この時に石井君と彼女が、学会に対し酷く悪い印象をもったのではないかと私には思える。何しろ、親戚の梅本君がだまされて創価班大学校に入れられて退転状態になってすぐの事なのだから!

4 者区活動者会での、平和会館役員着任時の件(極楽寺氏がPA=音響担当)

当時、極楽寺氏は副本部長。

集合時間を過ぎても極楽寺氏が来ないので加藤本部長が電話で催促したら、家で寝ていた。

そしてすぐ着任します、との事だったが1時間以上もしてからチノパンとグレーのとっくりセ

ーターで来た（！）

私は会合に終わりごろから参加したのだが、この極楽寺氏の態度には加藤さんも、赤影さんも、そして北条君もこの時ばかりは本当に激怒していた。

学会本部へ少年少女合唱団アルバムを届ける時（私が行けないように妨害）

アルバムを先生へお届けする事になった。

お届けする日に、ちょうど衛星中継の日が重なった。

ちなみに青年部幹部会では無い。結集も一切かかっていない（赤影本部長にわざわざ確認してある）。当然数日にわたり午前と午後、何度も行われる会合である。

しかし、今までの極楽寺氏の行動パターンから妨害が予想されたので、第四地区の部員さんには全員（！）連絡を付け、残念だが全員不参加の確認をしてあった。

私が学会本部へ行く前日の土曜日になって案の定「第二地区のSさん宅に寄って欲しいんだけど」などと言い出し、アルバムを送り届けに行く件を話したところ激怒して見せ、私が第四地区を全て回ってあることを説明しても「本幹衛生中継の連絡に、第二地区もまわれ！日曜日は衛星中継の結集に回れ！本部など行くのはその日は止めろ！」などと叫び続け、話にならなかった。このころは当時少年部長の張元さんに極楽寺さんの行動を訴え、下手に合唱団の日程をばらさないように釘をさしてあったのだが・・・恐らくアルバム作成を知った上での極楽寺氏の行動であろう（そうでなければ土曜日の会合に極楽寺氏が時間通り来るはずがないのだから！）

だいたい、大結集の青年部幹部会の衛星中継ならともかく、普通の四者の衛星中継ならば第二地区の四者のだれかに依頼すれば良いものを、駐車券も無いし訪問先のS君も参加の意志など無かった（私が行ったら断られた）のに、私の未来部の活動を妨害するために他の活動をゴリ押しさせられた！どう見ても計画的であろう。

だからこの時は、先生の元へ少年少女合唱団のアルバムを届けに行くのに、団長である私は参加できなかったのである。参加の意思が無い他地区の部員さん宅へその日訪問させられただけの事で！

公明党ピラ配りの件

極楽寺部長「ピラは（少年少女合唱団面接の日に）日曜日の昼間配れ！ペアで日を決めろ！」
→私はこっそり日をずらし事前に（土曜日に）配った。赤影本部長に確認したところ、明け方配れと言ってあったのだそうである。

だいたいピラが来てすぐに配らず、わざわざ日を遅らせてまで合唱団面接の日に配れ！などと言うのはただの妨害である。ただ、合唱団団長としては申し訳ないのだが、合唱団面接は他の方に実施してもらい、私は欠席した。

馬鹿馬鹿しい！日曜日の昼間はF取りの戦いをやるべき所を、わざわざ日曜の昼にピラ配りをペアを組んでやれなど嘖飯物の反逆行為である！

くどいようだが当時の男子部活動家は3名。私と大島君と北条君。2名はどんなに極楽寺氏が逆行を繰り返そうとも、それを知っていながら黙認し続けた。それどころかかえって時には一緒になって行動してしまい、選挙終盤戦に喜んでG県になど行っていたが、それが法華経の行者の戦いとして正しかったのかどうか、両名共、一度良く考えてもらいたい。

・合唱団日程等の件

張元ゾーン少年部長の時、日程表裏に合唱団の日程が乗るようになった（私は、「極楽寺氏から嫌がらせをされますから」と言い、反対した）。案の定、それから露骨に嫌がらせをされるようになった。極楽寺氏は、土曜日の唱題会にはいつも遅刻、欠席ばかり（私から電話して呼び出すと来る。）であったのに、練習の前日になると唱題会に参加し、まるで少年少女合唱団のせいで活動がおかしくなるような事を言い続けた。「あしたの動きは、どうなってるか説明して！」「また合唱団のことばかりやって、男子部の活動は何もやっていないじゃないか！」「弁当持ちで午前と午後！？そんなことはいいかげんやめろ！」などと、自分が退転状態で男子部の活動の流れも知らないくせに、合唱団の運営にしつこく干渉し続けた。

そもそもこの土曜日の唱題会は極楽寺氏が上からの打ち出しに反発し地区リーダーの支援活動を妨害する為に始めた会合である（都議選支援期間、上から土曜日会合禁止の打ち出しが降りてきた為反発して土曜日の唱題会を始めた。そして終盤戦に北条君と大島君の悪口を組織に垂れ流した）

その後極楽寺氏はどんどん組織から離れ、その日程表ですら持たなくなる（日程のことがさっぱりわからなくなる）のだが、私は組織で問題を起こしたという事実無根の捏造ネタの為、合唱団団長をクビになり、スタッフとしても関わらないでほしい、とゾーン少年部長から頼まれ、少年少女合唱団運営から一切手を引いた。子供達は本当にかわいい存在ではあったのだが、後ろ髪を引かれる思いで、合唱団から離れたのである。後日、子供達から、私が突然居なくなった事に対して責められた事があるが、神経を引き裂かれる思いがした。

~~今年になって、~~井上さんから聞いた話なのであるが、ゾーン少年部長が張元さんから井上さんになる時、張元さんは「ごめん井上君、少年部長は君以外だれもなる人がいないから。やしのみ君は団長の時に組織で問題を起こしたもんで、やしのみ君は出来ないから」と言われた、との事。

だれが黒岩部の男子部の組織をぼろぼろにってしまったか、だれが組織から離れてでたらめな行動をとっていたのか、だれの信心が狂っていたのか、だれも気が付かなかったのである。

井上さんも、この話を深く信じ込み、その為大変な事態を招いてしまったのだが組織にウソが垂れ流されるとするのはそういう事である。（大変な事態というのは、井上さんがSさん（その時は区男子部長）に極端な話で相談を持ちかけ、**区少年部長が本部少年部長に直接連絡を取る事が一切禁止されてしまった**。その事が、どれほど区の少年少女部育成の足かせになってしまった事か、計り知れない。その後には私が県少年部長になると、ある人事担当の男子部幹部（私の同級生）から「区の少年部なんか別にだれでもできるね？今会議してるけどやしのみ君一人が頑張ればいいような人事にするから」と電話があり

そして各区の少年部長さんや合唱団団長さんの多くは活動していないメンバーがあらわれてしまったのだが。(当然、後日婦人部からの苦情が相次いだ)

そのような人事の直後に秋谷会長(当時)から「未来部の活動を含め学会の4本柱とします」という発表があり、本当に残念な思いをした。

ゾーン結成記念日の件(私が少年少女合唱団団長を突然クビになった事件)

(ここは編集集中)この日の合唱団発声練習時のビデオがダビングしてもらって手元にある。

少年少女合唱団がゾーン結成記念日で歌う事になった。

極楽寺部長が記念日会合への乗り合わせを強要して来たが私は団長なので無理と断った

→張元少年部長に相談し、発声練習を抜け出して私が乗り合わせの場所まで行くようにした

→再び極楽寺部長へ部活動者会の場で乗り合わせOKの約束(但し、一度は平和へ行ってから)

をし、極楽寺部長は変な声で「ようし、頑張ろう！」などと訳のわからない事を言った

→極楽寺部長に連絡した事を再度、張元さんに報告

→前日の確認

→当日になり極楽寺氏がまずうちに電話(私は当然平和会館に行っていて不在)し、うちの母に「平和に行っちゃった!!」などと怒って見せ、そして「・・・」(解読不能なわけのわからない言い方でしゃべり続けたとの事)

その後、大島君のところに電話を入れ、「やっちゃんが平和にいつっちゃったもので・・・」(・・・のところは、聞き取れない言い方で、まったく何を言ってるのか解読不能だったとの事。同じパターンを、他にも2度私はやられた事があるが)

そして、極楽寺氏は乗り合わせの駐車場に来て、「あれ?なんでやしのみ君がここにいるの?」などとワザとらしく言った。罨にはめたくせに。

そんな事があった直後、まず極楽寺氏は張元少年部長のところに私を中傷しに行き、その後ゾーン男子部長のところに行ったらしい(張元少年部長から聞いた)そしてゾーン少年部長から張元少年部長に、私のクビの件連絡が来たとの事。

張元少年部長は私に申し訳なさそうに「ゾーン男から話聞いている?」などと切り出し始め(平和会館の駐車場の車中で)極楽寺氏は〇〇だとかゾーン少女部長があんなだから君も不満もあっただろう、などと同情するような言い方をしていた。

しかし後日井上さんから聞いたのだが、張元さんは井上さんに「ごめん井上君、少年部長は君以外だれもなる人がいないから。やしのみ君は団長の時に組織で問題を起こしたもので、やしのみ君は出来ないから」と言われた、との事だから、結局やはり騙されていたのだ。

なぜか人事の発表も無いのに私がクビになった事を解任前に極楽寺氏は知っていた!最後に少年少女部のアルバムを平和会館で作成していたところに極楽寺氏が寄り、私に「ああ、これで最後?」などと言ってきた!

極楽寺氏は長い時間をかけて私を誹謗中傷し根回しを繰り返してきたのだろうから、クビの人事をその時知っていたのは当然と言えば当然かも知れないが。

・少年部員会の日程を勝手に捏造する

これも編集中

多喜支部長の娘さんが、うちの支部の少女部担当になった。

男子部が勝手に少年少女部の日程を決めないよう釘をさされていた。

春休み期間、たまたま極楽寺氏が本部唱題会に来ていて、赤影本部長に「日程は〇月〇日でもいいから、日程表に載せろ！」と勝手にわめいた。私は、日程は当月にならないと女子部都合もあり決められないと言ったのだが。→本当に載ってしまった！

このせいで、また多喜支部長から、私が勝手に日程を決めたなどと苦情を言われ、私が言い返してもきちんと話を聞いてもらえなかった。少年少女部員会の日程を勝手に捏造したのは極楽寺氏であったのに！

極楽寺氏をかばう多喜支部長に、極楽寺氏の事を説明してもただ無視あるのみだったが、それなら私に苦情など言わないでもらいたい。

・ 達哉さん部活参加希望時の件（駐車場案内の妨害）

これも編集中

極楽寺氏が「はあ！？今勤行中だから席を立つな！駐車場へは行くな！」などと私が会友の小林さんを駐車場に案内しようとするのを妨害した。

車のブレーキに言いがかり、ジーンパン禁止、留守中の不法侵入

私の家へ留守中に不法侵入しておいて、部の会合で私の家の中の~~状態を言い~~（←正確にはあえてどんな状態の事を悪口しているのか明かさず）、あろうことか北条君、大島君と一緒に3人で盛り上がった！（私には言えないようなウソの話を北条君と大島君に吹き込んだのだろう）

北条君（現県書記長県青年部長）と大島君（現区男子部長）はいじめに何ら反抗せず、むしろ従う事で黒岩部で生き残ったのだが、その後極楽寺氏の行動について何らの説明を周囲に行わない。黒岩部の男子部が破壊されたのに、こんな事では駄目である。

旧版の名簿破棄を命令した上、第四地区の名簿のみ作成しない（年末、

年始） 編集中

彼の部長最後の年。赤字だらけでわざと間違っような訂正→出来上がった名簿を第四地区のみ渡さず、**その時もし極楽寺氏の指示に従って旧版を廃棄して**

いたら、第四地区の男子部名簿が無くなってしまおうところだった！

北条君と大島君にはきちんと名簿を渡していた。先に書いた地区大会の時、私は電子手帳の名簿を見て活動していた。その時極楽寺氏に名簿を取り上げられていたので。

その時私の電子手帳をほめて下さった、地区大会に呼んだ幹部が、その後今度は私をしばらく無視するようになったがまた一体何があったのやら。

・極楽寺氏が青年部教学一級試験合格時にした時の態度

そのころ極楽寺氏はほぼ退転状態だったにもかかわらず、活動しない（日程の事も知らない！）くせになぜか1級試験の勉強会には出席し続け、合格した。

そして極楽寺氏は、合格して次の土曜日の唱題会には何故か時間通りにきちんと出席し、突然私に、佐渡御書中の（「魚は命を惜(おし)む故に・・・魚(餌)にばかされて釣をのむ云々の箇所」）について説明しろなどと言い出し私が説明をし始めると止めてその御書の講義を始めて合格自慢を始めた。

そして私の持っていたかばんに言いがかり（「何だこの趣味の悪いかばんは！？これから2度とこんなかばんは会合に持って来るな！いいね！」と、でかい声で恫喝）を付けた。（さすがに普段は極楽寺氏のいいなりの北条君もこの時の恫喝には驚き、赤影本部長にすぐ相談したらしい）さらにその場で、梅本君を退転状態にした事を責任転嫁し、私の事を「君が梅本君のところを訪問しなかったから梅本君が出なくなってしまうのだから！僕が前から言っているように！きちんと男子部も未来部も回って！梅本君の面倒を良く見てあげてひっぱってあげて」などと真っ赤なウソの指導をして見せた。

（あと、一級試験勉強会のころ私が達哉さんの折伏に通っていたのを知っていて、後日副本部長になると折伏の妨害をした）

それまで部長として部の御書学習会も放棄して（私が指摘しても行わず、壮年部から合同でとの誘いがあったのを私が伝えても行わず）、北条君の3級試験受験の勉強会も行わず、部長としての責務を放棄しておきながら合格の自慢をし、ついでに退転状態に追い込んだ部員さんについて平気な顔で人前で私に責任転嫁し、後日嫌がらせ（折伏妨害）を行ったのである！

だいたい未来部については極楽寺氏が中等部に全く連絡を流さなかった為に苦情が寄せられていたのである。長島さんの奥さんからも私に何度も話があった。

また報告書の最初にも書いたが、後日、本部中等部長としての責務も放棄し続けた（少し指摘されただけで黙ってあいさつも無しで部長会から帰宅してしまった！）。

周囲の人間も、このような狂った人間に踊らされ洗脳されては絶対に駄目である。自分の信心も狂ってしまうし組織破壊に加担させられ利用されてしまう！

事実そうだったのであるから良く総括する事が大切である。

黒岩の男子部は破滅してしまったのである。よく考えて欲しい。

単なる個人的なトラブルなどと判断し放置しておいて済む話では、決して無いのである。

創価班の担当態度について、創価班卒業間際の出来事

（この件は書けばいくらでもたくさんあるのだが・・・）

先の梅本君の件以来、無断での指導会・任務・創価班会への欠席・遅刻を極楽寺氏自身が繰り返すようになっていった。

着任しても、無断遅刻し第2駐車場へ到着（創価班は第3P使用と決まっていたのに）すると同時に「すごい…すごいよ！ビエイラさんのピアノ聞いてきたけどすごいよ！感動したよ！」などと意味不明の事をわめいたり、着任中周囲に聞こえるような声で繰り返し会員さんの車を悪口したりした。

極楽寺氏が創価班卒業の最後の着任の時には私が無線の電池交換をしているスキに私の着任位置（平和会館の焼却炉があった付近のUターン地点）付近の班員全員に休憩を指示した上で、

やしのみ君が行方不明になった、勝手に平和会館から出て行った為どこ

を探しても居ない！などと嘘の騒ぎを起こした。

（私がきちんと着任していた事は、極楽寺氏の指示で皆が休憩していた為だれも知らない。ちなみに私の周囲の班員ほぼ全員に休憩の指示を出した事については明らかにおかしな行動であるので当時総括のAさんから極楽寺氏へ指導をしてもらったのだが、追求された極楽寺氏が「**そんな指示はしてません**」などと平然と（低い声で）嘘をつき、指導にならなかった）そしてそんな事をしでかした後、着任終了後に最後のあいさつを求められ、極楽寺氏は「僕が創価班で得られた物は～何だかわかりません」などと、とうてい創価班部長とは思えない噴飯物の最後のあいさつを皆の前で堂々とやらかした！創価班組織を利用して人材（梅本君）を潰したくせに。

それ以前に私が帯状疱疹で治療にかかった時も、極楽寺氏は創価班で私が居ない時に「彼は変なところへ遊びに行つて変な病気にかかった！」などと激怒してみせていたそうである。加藤さんから聞いた。明らかに虚偽の、風説の流布である。何しろこの帯状疱疹については私と北条君と大島君と3人がかりで極楽寺氏にわざわざ説明をしておいたのだから。土曜日の部の活動者会で。誤解の仕様もない。

創価班組織を怨執し自グループの着任は無断遅刻・欠席を続けたにもかかわらず、なぜか特別体制の時だけ進んで着任（しかも一番目立つ正門前のポジション！）するようになった。

王地区部長から「極楽寺のやつ、あいつ**正門前で**創価班やってて、にこにこしてたぞ」と聞き、続いて赤川君のお母さんからも「極楽寺君が笑顔で**正門前で**創価班やってた。あの人が、本当に表情が変わったねえ。すごい良い人間になったみたいに見えるけど」などと聞き、耳を疑った。

そのうち、私も彼の着任している所を目の当たりにした。

笑顔で、落ち着いて、**正門前の**（一番目立つ場所）着任をしている！正規のグループの着任も

指導会も遅刻・無断欠席し、数々の奇行を続けていたくせに！

創価班組織を怨執し、しかしそんなところを黒岩支部の人たち？にばれたくない？ために見栄を張ってグループ以外の任務につくようになっていった（しかもいつも目立つ正門前！）のであろう。

グループでは（創価班の）部長役職にもかかわらず指導会も放棄しわけのわからない指導を行ったり私をはめていやがらせを行い組織を混乱させたくせに、グループ以外の任務に一番目立つポジションに笑顔で着任していた！その着任の姿を見た時は、私は本当に、彼の事を恐ろしく感じた。

創価班組織には反逆したいくせに、その事を黒岩支部の皆に知られたくなかったのだろう。

だから正規の組織以外の着任を、自らすすんで実行していたのではないか。

なにしろ県の創価班総会にも部長なのに無断欠席したのだから。

彼は、黒岩支部に居る限り悪事がばれることは無いと思い、ここの組織を完全にナメているのである。

とりあえず一日も早く、彼に対する不正統監を止めていただけるよう、強く希望する。

住所がN町であるのに約30年以上も黒岩に統監を置いてある事は、ど

う考えても異常である！

即刻S支部へ統監を戻すべき。

~~報告書1の男子壮年御書学の日は2002年6月9日~~